令和６年度

飯田 OIDE 長姫

Topics

長野県飯田OIDE長姫高等学校
Iida OIDE Osahime High School

地域産業人の育成をと 地元企業より プロジェクタを寄付していただきました。

2024年(令和6年)4月4日 木曜日　南信州新聞

ササキ保温工業

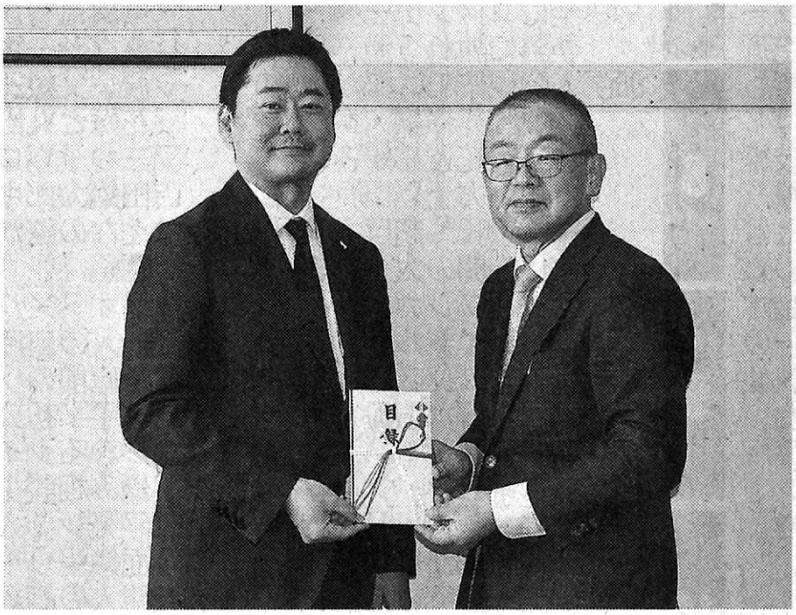
地域産業担う人材育成を

八十二銀行私募債活用し寄付

飯田市松尾清水の建設業・ササキ保温工業は3月27日、八十二銀行の「地方創生・SDGs応援私募債」を活用し、飯田OIDE長姫高校にプロジェクター1台を寄付した。佐々木志郎社長が同校を訪れ、松原均校長に目録を手渡した。

同私募債は、八十二銀行が発行企業から受け取る引き受け手数料の一部を割り引き、発行企業が割り引き分で指定する企業や教育文化施設に学校用品などを寄贈する商品。

同社は建設業のうち熱絶縁工事業にあたり、従業員の8割が技術者。人材育成の重要性を日頃から感じており、県内初の総合技術校として生徒に専門的な学びを提供する同校への寄贈を決めた。



目録を手渡す佐々木社長（左）

松原校長は「さまざまな場面で地元の方々に助けていただいている。地域の産業に寄与する人材を皆さんと共に育成していきたい」と感謝を述べた。佐々木社長は「建設業を担う子どもたちのために、できることがないかと考えていた。少しでも役立てば」と話していた。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

生徒会

交通安全啓発活動を実施

2024年(令和6年)4月17日水曜日　南信州新聞

ヘルメット着用を

OIDE長姫高 自転車利用者に啓発

春の全国交通安全運動の最終日の15日、飯田OIDE長姫高校生徒会は校内で自転車のヘルメット着用を呼び掛ける啓発活動を行った。登校時間に合わせて校門周辺に立ち、昨年4月から努力義務化されたヘルメット着用の順守と自転車の安全利用を呼び掛けた。

生徒会主体の活動に飯田署や飯伊交通安全協会、飯田市、県なども協力し、計19人で啓発。登校してきた生徒にチラシや自転車用夜光反射材などを配った。

参加者たちは「自転車に乗るときはヘルメットを着用して」などと声を掛け、啓発物を配布。昇降口近くにはのぼり旗を掲げ、自転車利用者以外にも交通安全を呼び掛けた。

生徒会長の今村紅令羽さん(17)は「ヘルメットをかぶっている人が少なかったのは残念。ヘルメット着用とともに、運転中のスマホやイヤホンはやめて安全に登下校してほしい」と話していた。

同署交通課の前沢嘉信課長は「自転車も自動車やバイクと同じ車両の仲間。ヘルメット着用はもちろん、一時停止などの交通ルールも守ってほしい」と話していた。

自転車利用者に啓発物を配布した

池上咲さん 全国学生書道展学年優秀賞受賞

2024年(令和6年)4月23日火曜日 南信州新聞

小中高生16人が入賞

真浄寺書道会 全国学生書道展の結果

第60回記念全国学生書道展（公益社団法人創玄書道会主催）はこのほど、東京都新美術館で開かれた。飯田下伊那関係では喬木村の「真浄寺書道会」に通う小～高校生の16人が入賞した。

文化庁、東京都など後援。幼児から高校生まで約2万点の応募があった。指導する永井真寿住職は「年々レベルも上がっている。新しいことを大切にしつつ、基本に忠実に取り組んでほしい」と話していた。

飯伊の入賞者は次の皆さん（敬称略、校名・学年は昨年度のもの）。

▽毎日新聞社賞 奥村優人（喬木中3年）▽金剛峯寺賞 佐藤光莉（喬木小5年）▽学年優秀賞 奥村未来（飯田女子高2年）、池上咲（飯田OIDE長姫高2年）、羽生彩華（飯田高2年）、奥村芽生（喬木中1年）▽奨励賞 池田あさ美（飯田女子高2年）、富田珠心（同）、木下里依紗（喬木中1年）、奥村陽菜（同）、奥田心優（同）▽湯澤心美（喬木小5年）、奥村心嘉（同）、玉置七菜歩（同）、相澤一花（同）、小宮山凛々花（鼎小4年）

毎日新聞社賞の奥村さんの作品

金剛峯寺賞の佐藤さんの作品

2024年(令和6年)4月23日 火曜日　南信州新聞

豊丘村道の駅でテックレンジャーショー

旬の味覚に多彩なステージ

豊丘村 道の駅で6周年感謝祭

豊丘村の道の駅「南信州とよおかマルシェ」で20、21の両日、開駅6周年を祝う「感謝祭」が開かれた。旬の農産物や加工品などの販売や地元高校生らによるステージ発表などが行われ、住民や観光客ら多くの来場者でにぎわった。

同道の駅は、中山間地の中心部に生活関連施設を集める「小さな拠点」の中心として、神稲の竜東一貫道路沿いに村が整備し、2018年4月27日にオープン。農産物直売所やレストラン、地元スーパーなどの店舗に加え、コミュニティーバスの交通結節点や観光窓口などの機能を備える。

感謝祭では2日間にわたり多彩なイベントを展開。地元女性農家らが手作りした五平餅やあんころ餅をはじめ、フルーツパフェや道の駅オリジナルクラフトビール「桃の誘惑」などを販売した。村内で収穫したばかりのタケノコを使った「竹の子汁」の振る舞いには長い列ができ、好評を得ていた。

ステージでは、飯田OIDE長姫高校生によるテックレンジャーショー、飯田女子高校生によるチアリーディングショーなどが行われ、老若男女の笑顔を誘って祭りに花を添えた。

感謝祭を盛り上げるステージ発表

片桐明駅長は「地域の皆さんをはじめ、多くの人たちに支えられ6周年を迎えられた」と感謝し、「引き続きご愛顧いただけるよう取り組んでいきたい」と話した。

飯田市長
地域人教育で特別講義

2024年(令和6年) 5月1日 水曜日 南信州新聞

OIDE 長姫高

地域への愛着を持って
「地域人教育」で市長講義

飯田OIDE長姫高校商業科3年生の「地域人教育」で4月26日、飯田市の佐藤健市長が特別講義した。商業科3年生76人が本年度、地域への理解を深め、市内で各地区やテーマ別に活動を展開する。

地域人教育は同校と市、松本大学の3者のパートナーシップ協定により行う教育プログラム。地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育むことを通じ、地域を担う人材を育成する。

市長の特別講義は毎年の年度始めの時期に実施しており、飯田市の地域づくりの強みや将来像、現在の課題などについて学ぶ機会としている。

地域人教育で実施した佐藤市長の特別講義

佐藤市長は、市の課題や将来像だけでなく、自身の高校・大学生活の体験からも助言。「自分が大学生の時、地元の良さを友だちに伝えられなかった。その時、初めて故郷のことをあまりにも知らないことに気づいた」と打ち明けた。

「県外や海外の人と対面した時に地元のことを語れないのは恥ずかしい」として「ふるさとを語れる人になってほしい。地域人教育は素晴らしいプログラム。いろんな人の話を聞いて学び、体験してほしい」と呼び掛けた。「住民の愛着度が高い地域が、外部から来訪したいと魅力を感じられる地域になる。地域人教育を通じて、地域に対する愛着と誇りを持ってほしい」と訴えた。

生徒たちは10のグループに分かれ、市内5地区をエリアに活動する。全市的な課題を扱うグループなどもある。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2024年(令和6年)5月2日木曜日 南信州新聞

テックレンジャー やまびこマーチに出演

OIDE長姫高

テックレンジャー新体制で始動

やまびこマーチでショー披露

飯田OIDE長姫高校コンピュータ制御部が扮する「高校戦隊テックレンジャー」が、ウオーキングイベント「第38回飯田やまびこマーチ」の2日目（4月28日）に登場し、新年度の活動をスタートさせた。4月に新入部員8人が入部。結成以来最大となる24人に大したテックレンジャーチームが、見応え十分なショーで観客を魅了した。

「歩育コース」と「ほっとすまいるコース」が行われたこの日、参加する親子をターゲットに開催。会場となったスタート地点の飯田中央公園には、多くの参加者や一般の観覧者が詰めかけ、テックレンジャーの活躍に拍手や大きな声援を送っていた。ショー終了後には、写真撮影などにも気軽に応じた。

活動開始は2010（平成22）年。子ども工作教室やCM制作、ショーを主な活動とし、子どもたちとの交流を大切にしながら、各自の持つ専門性を生かす活動を展開している。昨年は県警と合同でサイバー犯罪防止を訴える活動に連続10年取り組んだ功績が評価され、県警本部から感謝状が贈られるなど、地域貢献活動への功績は県全体に認められるようになった。

6日に飯田市丸山町のかざこし子どもの森公園で開催の「理科実験ミュージアム」で50分間のショーを披露する予定。時間は午後1時15分～2時半。

やまびこマーチに登場したテックレンジャー

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

電子機械工学科３年生

２年間の学習成果を披露

マイコンカーグランプリ開催

2024年（令和６年） ５月９日 木曜日　南信州新聞

OIDE長姫高 電子機械工学科３年生 ２年間の学習成果披露 マイコンカーGP

飯田OIDE長姫高校電子機械工学科3年生37人によるマイコンカーグランプリ（MC―GP）が8日、同校であった。機械技術、電気電子技術、制御（情報）技術をバランスよく学ぶ、系統的な学習成果を発表する機会。1、2年生や保護者ら約140人が見守る中、製作・調整を重ねたマシンでタイムを競った。

コース上の白線をマシンに装着したセンサーで認識し、左右のタイヤの速度を変えて進行方向を制御しながら自動走行する完全自走式ロボットで競う大会。同科独自の活動として2019年に始まり今回で6回目を迎えた。

生徒は1年時からの授業で基盤製作や車体設計、プログラミングなどの学習を重ねてきた。車体はコンピューター利用設計システム（CAD）で設計し、3Dプリンターで出力。速度を重視し軽量化を目指したものから、安定性を重視した大型のものまで工夫をさまざまなマシンが登場した。

大会は生徒自身が運営。動画や参加選手のインタビューを交えて大会を盛り上げ、難所の鋭角コーナーをクリアしたり、好タイムが生まれると会場は大きな拍手に包まれた。

予選タイムの上位8人による決勝トーナメントで上位3人を表彰したほか、ベストタイム賞や投票によるベストデザイン賞などを設けた。

実行委員長を務めた熊谷圭哉さん（18）は「放課後や休日の部活動後に調整する人たちもいた」と参加者の努力をたたえた上で、下級生に向けて「今やっている実習の知識と技術を3年生は総動員して製作した。来年度以降の参考にしてほしい」と呼び掛けていた。

熱戦を繰り広げた第６回ＭＣ―ＧＰ

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

地域と共に　夢と創造　虹の学校　飯田OIDE長姫高等学校

南信総体大会成績

2024年（令和６年） ５月16日 木曜日 南信州新聞

県大会目指し熱戦

バスケなど南信高校総体

バスケットボールや剣道などの南信高校総体は10～12日、各地で行われ、県大会やインターハイに向けて熱戦を繰り広げた。

バスケットボール

バスケットボールは10～12日に行い、男女とも県大会（31～6月2日・岡谷市など）へ進む8校が決まった。

▽男子 ①東海大諏訪②岡谷南③伊那北④下諏訪向陽⑤OIDE長姫⑥飯田⑦諏訪清陵⑧諏訪二葉

▽女子 ①東海大諏訪②赤穂③風越④諏訪二葉⑤伊那北⑥OIDE長姫⑦伊那西⑧伊那弥生

バレーボール

バレーボールは10～12日、東海大諏訪高校体育館などで行った。

▽男子 ①岡谷工②諏訪清陵③東海大諏訪④岡谷東⑤阿智⑥駒ケ根工⑦OIDE長姫⑧飯田

卓球

卓球は11、12日、男女別の団体、ダブルス、シングルスを行った。県大会は30～6月1日に佐久市総合体育館で開かれる。

【女子】

▽シングルス ①木下心愛（飯女）②久保田千尋（同）③豊口梨菜（O長）⑤前沢梢（飯女）⑨西川加菜（飯田）、山本天音（飯女）、伊藤栞梨（風越）

柔道

柔道は11日、駒ケ根市武道館で行った。

【男子】

▽個人66キロ級 ①小沢巧実（駒ケ根工）⑤所沢悠良（O長）

▽同100キロ級 ①小林寛希（東海大諏訪）③秋元真之介（O長）

登山

登山は10、11日、富士見町の編笠山・西岳で行った。

▽女子 ①OIDE長姫（小池美緒）

弓道

弓道は11、12日、飯田運動公園弓道場で行った。県大会は6月1、2日に長野運動公園弓道場で開かれる。

【男子】

▽団体（40射）①諏訪二葉A25中②下伊那農A⑥飯田A⑦風越A⑨OIDE長姫A

▽個人（8射）①登内琉真（高遠）8中③倉本玲央（O長）⑤半崎龍星（阿南）⑦寺沢樹（O長）⑨近藤志希（飯田）

【女子】

▽個人（8射）①浦野友衣（伊那弥生）8中③熊谷かなで（飯女）④田口唯花（O長）⑦滝浪翼（飯女）⑧玉本利帆（同）⑨石橋由希菜（飯田）

剣道

剣道は11、12日、飯田市鼎体育館で行った。県大会は31～6月2日に県立武道館で開かれる。

【男子】

▽団体 ①下伊那農②飯田

▽個人 ①松沢伸弥（下農）③佐々木羚太（飯田）④平島諭（O長）

テニス

テニスは9～11日、伊那市センターテニスコートであった。

【男子】

▽団体 ①伊那北②諏訪清陵③OIDE長姫、赤穂

▽ダブルス ①平沢孝輔・島崎晃太組（O長）

【女子】

▽団体 ①伊那北②諏訪清陵③伊那弥生、OIDE長姫

本校関係の競技区分のみに縮小して掲載しています。

本紙掲載外の入賞成績

バドミントン 【男子】

◇団体 ３位 ◇個人ダブルス（伊藤友哉・金田陽翔）１位

◇シングルス 伊藤友哉 １位

陸上 【男子】

◇400m障害 遠藤誠志郎 ３位 ◇走り幅跳び 新井大誠 2位

◇砲丸投げ 市岡朋樹 1位 ◇円盤投げ 市岡朋樹 3位

空手道 【男子】 ◇団体組手 3位

県大会での活躍を応援しています！

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

電気電子工学科

第 14 回ライントレースロボット大会

2024年（令和６年） 5月23日 木曜日 南信州新聞

OIDE長姫高 電気電子工学科

マイコン制御の学習成果披露

第14回ロボット大会

飯田OIDE長姫高校（宮澤直哉校長）の電気電子工学科3年生40人は22日、ロボット製作・制御の学習の集大成としてライントレースロボット大会を開いた。2年生や保護者が見守る中、調整を重ねたロボットを走行させて技術を競った。

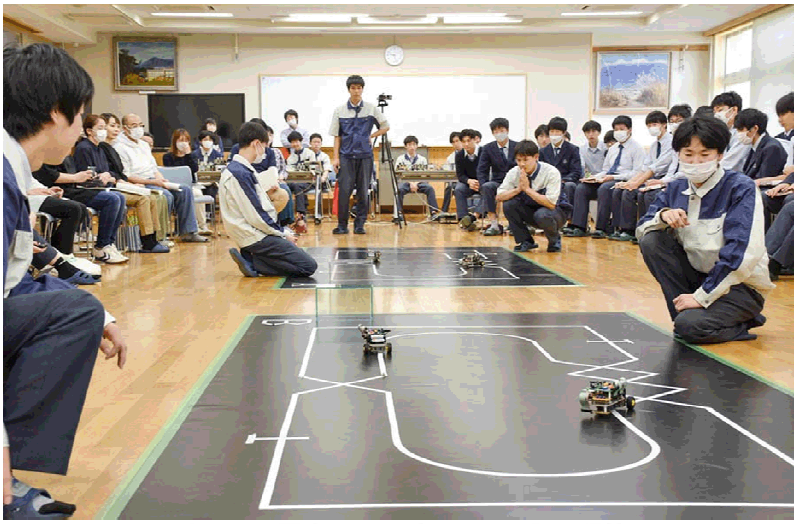
ライントレースロボットは自律移動型ロボットで、PWM制御という技術でコースの白線を3つのセンサーで読み取り、反応に応じて左右のモーター（タイヤ）の動かし方を制御する。ジグザグや交差など多種多様なコースを走行する。

同科は1年次にロボットへ搭載する充電式電池の電源装置やマイコンボードを自作。2年次にはライントレースロボットの車体製作とマイコンプログラミングに専門教育の一環として取り組み、センサーで取得した情報をデータ処理してモーターを制御する方法を学んだ。

大会は今年で14回目。学習成果の発表の場で、企画運営も生徒自身が手掛けた。2年の時に見学した際の課題や改善点を検討し、運営に生かした。

予選では各生徒が2回ずつコースを走行し、合計タイムの上位8人が決勝に進出。決勝はトーナメント方式で順位を競った。

大会実行委員長の北原立聖さん（17）は「この大会を目標に1年次から実習でさまざまなことを学び、ものづくりの難しさや面白さを感じながらロボット製作に取り組んできた」と振り返り、観覧者に向けて「同じ材料から選手の腕によって作り出された40台のロボットに個性と魂を感じてくれたらうれしい」と話していた。



電気電子工学科のライントレースロボット大会

伝統の大会、クラス全員で作り上げて来ました！

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2024年(令和6年)6月4日火曜日　南信州新聞

同総会の定期総会が開催されました

飯田OIDE長姫高

学びやすい環境作り支援を

同窓会定期総会

飯田OIDE長姫高校同窓会の「第12回定期総会」が1日、飯田市内であった。23年度事業報告、同収支決算、10周年記念事業報告、同決算報告、24年度事業計画案、同収支予算案の計6議案を原案通り承認した。総会後は同校の部活動の発表で会場が盛り上がった。

昨秋は旧飯田長姫と旧飯田工業の両校が統合し新校となってから10年の節目を迎え、統合創立10周年記念式典をはじめとする記念事業開催のほか、ラグビー部の全国高校ラグビー大会出場などで盛り上がった一年だった。

須山同窓会長はあいさつの冒頭で「会員の皆さんの協力の下、これらを盛大に行うことができた」と感謝。本年度は通常の会運営に戻ることから「腰を据え、地に足を付けた運営を心がけていく中で、新規事業として会員相互の融和と親睦を深めるゴルフコンペのイベント化を目指したい」と提案した。学校に対しては引き続き「生徒たちが学びやすい環境を支援していきたい」とし、協力を求めた。

飯田OIDE長姫高校同窓会の定期総会

昨年度は創立10周年事業として、校歌の吹奏楽演奏用の楽譜贈呈、校歌碑建立、10人乗りワゴン車贈呈、記念式典開催、ラグビー部の花園出場に伴う寄付金集めなどに取り組んだ。

本年度は春、秋ゴルフコンペの位置づけの変更、国レベル出場事案に対する激励会などの学校支援事業を新規事業として24年度事業計画に盛り込んだ。

総会後は同校原動機部の鈴鹿11連勝の記録やパソコン制御部のテックレンジャーショー、吹奏楽部の校歌演奏の発表があった。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

キャリア学習の日

3年生の就職希望者は地元企業の説明会に参加しました

2024年(令和6年)6月5日水曜日　南信州新聞

高卒人材の採用意欲強く

高3生対象 企業説明会　上伊那の高校も初参加

飯田職業安定協会とハローワーク飯田は4日、高校3年生を対象にした企業説明会を飯田市座光寺のエス・バードで開いた。飯田下伊那地域のほか、上伊那の高校も初めて参加し、8校から約250人が参加。飯伊の80事業所から仕事内容や募集職種について説明を受けた。

就職を希望する高校生に地元企業を知ってもらおうと開き、今年で4年目。人出不足で若手人材確保への動きが強まる中、定員を会場制限ぎりぎりの80社に設定。ネットでの受付開始4時間で定員に達し、96社から応募があった。

今年は初めて上伊那の駒ケ根工業高校も参加した。参加生徒も昨年から20人増加した。

生徒たちは事前に選んだ事業所のブースで20分間の説明を受けた。多くの事業所で話を聞けるようにとフリータイムも設け、1人最大5社のブースを巡った。

事業所はモニターやパンフレットを用い、企業の理念や業務内容を説明。休みなど福利厚生の充実に努めていることも紹介し、持参した製品を見せながらアピールする姿もあった。

エス・バードで開いた企業説明会

飯田OIDE長姫高校機械工学科の平澤孝輔さん(17)は「企業の知らなかったことが分かり、具体的なイメージを持てた。就職への選択肢が広がり、自分の得意なことを生かせる企業を見つけられたら」と話した。

同協会は「応募の多さから高卒人材の採用意欲の高さがうかがえる」とし「生徒数が減る中で、飯伊以外からも受け入れ、参加生徒を増やしていきたい」としている。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

建築学科で
内装工事の体験学習を実施しました

2024年(令和6年) 6月5日 水曜日　南信州新聞

座学で学べない建設業の魅力

専門家の協力で内装工事体験

OIDE長姫高

飯田OIDE長姫高校建築学科3年の26人は5月31日、県建設室内工事業協会の協力で内装工事の体験学習を校内で実施した。壁や天井の下地になる鋼材や石こうボードの張り付けなどを通じ、座学では分からない建築の作業手順や魅力を生で体験した。

協会は昨年度から、高校生向けの体験会を実施している。人口減による建築に携わる人材の不足を踏まえ、実際に作業することで建築業、内装工事を将来の選択肢に入れてもらうことを目的にしている。作業で使用した耐切創手袋や防じんマスクは協会が用意した。

この日は、協会に加盟する飯田市上郷別府の建築工事業コンテックナガイの従業員ら17人が来校。生徒たちは、作業に携わるプロの専門家を講師に、実際の工事に使用する材料を使用して内装工事を体験した。

鋼製下地を設置するグループでは、水平に引かれた線から垂直の寸法を取り、鋼材を切断して取り付ける作業を体験。生徒たちは、インパクトドライバーで鋼材を固定したり、防護ゴーグルを着けて寸法通りに鋼材を切断したり、天井をつる金具を取り付けたりと、指導に沿って丁寧に作業を進めた。

ボードの取り付けでは、現場で測った寸法通りにボードに線を引いて加工。鋼製下地にボードを取り付けると、背面の鋼材にきちんと食い込むようにインパクトドライバーで固定していった。

様子を見守った同社の中山雄介社長は「内装業体験を通じて建設業に関心を持ってもらい、将来の選択肢の一つにしてくれたらうれしい」と語っていた。

飯田OIDE長姫高で開かれた内装業体験学習

建築学科3年生、プロの技を学ぶ！

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

ラグビー部 7人制で2年連続全国大会へ

2024年(令和6年)6月15日土曜日　南信州新聞

「プレーを楽しんできて」

飯田OIDE長姫高同窓会

飯田OIDE長姫高校同窓会は13日、全国高校7人制ラグビー大会（7月21～24日、菅平高原スポーツランドサニアパーク菅平）に出場する同校ラグビー部を訪ね、激励会を開いた。

ラグビー部は4月20日の県予選決勝で飯田高校に勝ち、初出場だった昨年に続き、2年連続の出場を決めた。

部員たちに須山和彦同窓会長は「2回目というのは実力がある証。昨年は硬くなった面があったかもしれないが、楽しんでプレーし、笑顔で帰ってきてほしい」と言葉を贈った。

宮澤直哉校長は「昨年末は花園にも出場し、今年も7人制の全国大会へ出場する。日々の研さんのたまものだ。地域の期待は大変大きい。活躍を」と願った。

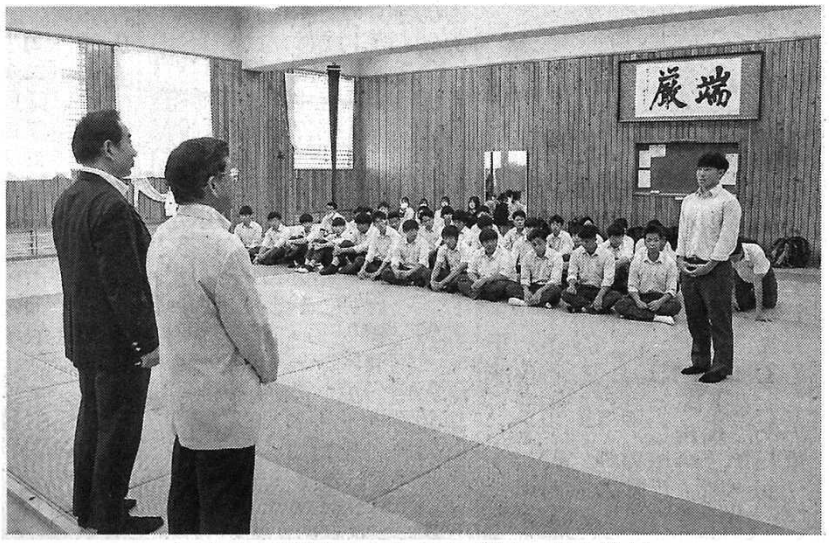
選手を代表して西村成さん(17)は「昨年は悔しい思いをした。そこから1年間、フィジカルと技術面を磨いてきた。まずは1勝を目指して頑張る」と力強く語った。

部員はマネジャーを含む44人。このうち8人が昨年の大会を経験している。7人制は15人制と同じコートで戦うため、一人一人のフィジカルと技術力が問われるという。

昨年の経験を糧にトレーニングと技術の練習を組み合わせ、個人でも体重を増やしてパワーアップを図った。

7月21日に開会式、22～24日に試合を行う。

全国大会出場のラグビー部激励



同窓会が飯田ＯＩＤＥラグビー部を激励

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

電気電子工学科

令和5年度後期 技能検定（国家検定）

シーケンス制御2級・3級 13 人合格

2024年（令和６年） ６月23日 日曜日 南信州新聞

OIDE長姫高

「上級資格にも挑戦したい」

シーケンス制御作業に13人合格

飯田OIDE長姫高校の電気電子工学科の13人が、国家検定「シーケンス制御作業」の2級・3級に合格し21日、宮澤直哉校長に報告した。

シーケンス制御は、あらかじめ定められた順序に従って各段階を逐次実行していく制御で、エレベーターや信号機、自動販売機など身の回りにある多くの機器の制御に使われている。

資格取得には、実技と筆記の両試験の合格が必要。実技は、指示された仕様に基づいて配線作業を行い、回路を完成させた後にプログラムを入力し、仕様通りに動作させる。生徒たちは放課後の補修や自習を重ねながら必要なスキルを身に付け、試験に備えた。

報告会で宮澤校長は「（合格は）皆さんの日頃の研さんのたまもの。上の資格を目指すも良し、視野を広げて他のことにチャレンジするも良し。合格で得た自信は今後の進路にも大いに役立つはず」とたたえた。

3年の香山侑哉さん（17）は「就職の際に大事な資格となる。現在は2級の取得を目指しているので、この調子で頑張りたい」と意気込んだ。技能検定と兼ねて実施された県技能競技大会で職業能力開発協会長賞（3位）を受賞した2年の澤柳楓さん（16）は「合否のことしか考えていなかったので正直びっくりした。次の取得に向け励みになる」と笑顔で話していた。

シーケンス制御作業に合格した生徒たち

祝

県技能競技大会 ３位

２年 澤柳楓さん

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

ラグビー7人制 全国大会出場 飯田市長を表敬訪問

2024年(令和6年)7月6日土曜日　南信州新聞

市長表敬した3選手

ラグビー

7人制全国向け決意

OIDE長姫高が市長表敬

全国高校7人制ラグビー大会（21～23日・上田市菅平高原）に2年連続で出場する飯田OIDE長姫高校ラグビー部の選手が3日、飯田市役所に佐藤健市長を訪ねて意気込みを語った。

飯田OIDE長姫は4月に行われた県予選決勝で飯田を36―19で退け、2連覇を果たした。

この日、選手を代表して佐々木大輝さん、坂巻武雅さん、中塚望夏さんの3年生3人が訪問し「県代表として1勝でも多く勝ち取れるよう頑張る」などと誓った。

佐藤市長はラグビーが盛んな地域性に触れた上で「後に続く後輩たちのためにも、思う存分戦ってきてほしい」と活躍を願った。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2024年（令和６年）７月10日　水曜日　南信州新聞

ＯＩＤＥ長姫 延長戦制す

延長戦で打線つながる

Ｏ長 ２回戦

延長戦までもつれ込んだ試合はタイブレークの十一回にＯ長打線が爆発し、一挙７得点を挙げた。赤羽主将は「チームの持ち味は徹底力。結果が出なくても一つ一つチームで積み上げていったものが最後につながった」と笑顔を浮かべた。

初回の先制点は押し出し四球。幾度も走者を得点圏に置きながらも、あと１本が出ずに２点目が遠い展開が続いた。六回には１死満塁の好機を生かせず。それでも選手たちは粘り強い打撃で相手投手に楽な投球をさせず、圧力を掛け続けた。

そして延長十一回、疲れからか制球を乱した相手投手の球をしっかりと見極め、暴投と押し出し四球で勝ち越しに成功すると、三番古林が甘く入った変化球を捉えて２人の走者が生還。試合を決定付けた三塁打は「チームで球数を投げさせたからこそ」（古林）。自分たちの野球を貫き、勝利をたぐり寄せた。

井口監督は「本来なら選手たちはもっと振れる。もう少し投手を楽にしてやりたかった」と苦笑しつつ、「昨年の夏から主力が赤羽以外ほとんど入れ替わった中で良いチームになってくれた」とねぎらった。夏の目標はまずベスト８。赤羽主将は「１試合１試合全力を尽くしていく」と力を込めた。

延長十一回に７点を挙げたＯ長（対ウェルネス長野）

Ｏ長・松下共（六回から救援）「チームのみんながつないでくれて最終回もいい投球ができた」

長野オリンピックスタジアム

OIDE長姫		打	安	点
⑥	赤羽	4	1	1
⑦	南島	6	2	2
⑧	古林	4	2	2
③	木下	4	1	0
⑨	上原	5	0	0
⑤	中島	5	2	4
④	浅岡	5	0	0
②	古山	4	2	0
D	畔上	1	0	0
H	山田	1	0	0
1	松下共	1	0	0
振球犠盗併		3	9	4
		0	4	0
		1	0	8

ウェルネス長野		打	安	点
⑥	坂本	5	0	0
⑧	小田	4	0	1
⑦	藤森	5	1	1
H	山浦	1	1	1
③	北沢	4	1	1
②	橋本	3	1	0
①	水瀬	2	0	0
⑨	木戸	4	0	2
④	野笹	3	1	0
H	新井	0	0	0
R	関	0	0	0
4	川瀬	0	0	0
⑤	野本	3	0	0
振球犠盗併		4	1	3
		1	0	4
		0	3	5
		1	4	4

▶２回戦（長野オリスタ）

OIDE長姫	10000000017	9
ウェルネス長野	00100000012	4

（延長十一回、十回からタイブレーク）
（Ｏ長）畔上、松下共―古山
（ウ長）水瀬―橋本
▷③古林（Ｏ）
▷②南島（Ｏ）

【戦評】ＯＩＤＥ長姫は同点の延長十一回、無死満塁から暴投と押し出し四球で勝ち越しに成功すると、古林の２点三塁打など３本の適時打が飛び出し、大量７得点を挙げて突き放した。投げては畔上、松下共の２投手が粘り強い投球で流れを相手に渡さなかった。

ウェルネス長野に延長戦で勝利

3回戦　敗退

7月13日　オリンピックスタジアム

長野俊英11―6飯田Ｏ長姫

全国高校野球選手権

長野県大会 3回戦

2024年（令和6年）7月15日 月曜日　南信州新聞

接戦も16強ならず

高校野球 長野大会　飯田と〇長は3回戦敗退

第106回全国高校野球選手権長野大会は大会6日目の13日、4会場で3回戦8試合を行った。飯田は長野商に0－1、OIDE長姫は長野俊英に6－11で敗れ、ともにベスト16進出を逃した。

〇長 3回戦

12安打もあと一歩及ばず

OIDE長姫は12安打を放ち、連打で6点を集めたがあと一歩及ばず「打倒私立」の目標には手が届かなかった。

先発の畔上は初回、不運な2点を失ったがその後調子を上げ、バックも堅い守りで2年生エースをもり立てた。

四回にも1点を失って3点を追う五回、六番中島からの5連打などの猛攻で同点に追いついた。

長野俊英はその裏をゼロに抑えられたが、六回に2点適時打で流れをつかんでリードを広げた。

OIDE長姫は八回、二死満塁から代打の小野が中前に2点適時打を放ったが、その裏に2点を返された。

打倒強豪私立、ベスト8を目標に掲げ「先輩が越えられなかった壁を突破しよう」とチームを引っ張ってきた主将の赤羽は「初回から全員野球で臨み、泥臭いヒットや四死球で後ろにつないだ。勝負どころであと一本足りなかったが、自分たちの野球ができた」と胸を張り、目を潤ませた。

球児たちの夏 2024

OIDE長姫・赤羽「（八回に相手のエラーで出塁し6点目を奪う）何が何でもつなごうと初球から狙った。（内野フライとなったが）結果的に出塁できた」

幸運な当たりで6点目をあげた主将の赤羽

▶3回戦（長野オリスタ）

OIDE長姫	000030030	6
長野俊英	20010242×	11

（〇長）畔上、松下共、前沢、横川―古山

（長俊）伊東、山口、佐藤―屋本大

▷③太田（長俊）

▷②浅沼（長俊）、古山（〇長）

【戦評】OIDE長姫は3点を追う五回、中島からの5連打などで同点に追いついたが、六回と七回に6点を奪われた。八回に代打小野の2点適時打などで3点差としたが、八回に突き放された。

⑪ ⑪

長野オリンピックスタジアム

長野俊英

		打	安	点
⑦	元田	3	2	0
⑤	大越	4	2	3
⑨	吉田	5	2	0
②	屋本	4	1	1
③	羽大	4	2	1
⑧	浅沼	4	2	1
①	伊東	3	2	3
H6	松井	3	1	0
⑥	後藤	0	0	0
④	山上	4	1	0
⑥	島岡	2	0	0
H1	桶口	0	0	0
1	山口	0	0	0
1	佐藤	0	0	0
振球	犠盗	併		
11	3	12	3	6

OIDE長姫

		打	安	点
⑨	赤南	3	2	0
⑦	羽島	5	0	0
⑧	南吉	5	0	0
③	木下	5	2	0
③	木原	2	1	0
⑤	上島	4	1	0
④	中岡	4	1	0
②	畔山	3	2	1
①	吉上	2	1	1
H1	畔山	1	0	0
H1	松田	1	0	0
1	松下	0	0	0
1	前共	0	0	0
1	小沢	1	0	0
1	横野	0	0	2
振球	犠盗	併		
10	3	10	13	7

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

同総会 全国大会出場者を激励

2024年(令和6年)7月19日 金曜日　南信州新聞

OIDE 長姫高

頑張ったと思える大会に

同窓会が全国大会出場2選手を激励

飯田OIDE長姫高校同窓会（須山和彦会長）は16日、全国高校ワープロ競技大会に出場する安藤奈々花さん（17）＝3年＝と、全国高校総体自転車競技大会に出場する船澤亮太さん（18）＝同＝の激励会を同校で開いた。2人に須山会長は「共に3年生で最後の大会になる。自分で頑張ったと思える大会にしてほしい」と励ました。

安藤さんは県大会個人で5位入賞し、全国大会出場を決めた。全国大会は8月1日に東京都台東区で開かれる。ワープロ競技では課題の文章を10分間の制限時間内で打ち、速く正確なタイピング技術を競う。「昨年に先輩も出場していたので後に続けてうれしい。初めての舞台で全力を尽くしたい」と意気込んだ。

全国高校総体自転車競技は今月27日に福岡県北九州市で開かれる。船澤さんは6月の北信越大会でトラック競技ポイントレースの4位となり、昨年に続き同競技での全国行きを決めた。「昨年は体調が整わず、実力が出せず悔しい大会だった。今年はここまで順調に調整できた。まずは予選突破を目標に頑張る」と決意を語った。

宮澤直哉校長は「2人とも3年間研さんを積んできた。最後を飾れるような成果になることを祈っている」と激励した。

全国大会へ出場する2選手（中央）を囲んで

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

原動機部 12連覇
Div-1 高校生部門 1～3 位独占

2024年（令和６年） ８月１日 木曜日 南信州新聞

飯田ＯＩＤＥ長姫高原動機部

飯田ＯＩＤＥ長姫高校の原動機部が７月28日に三重県鈴鹿市で開かれた電池自動車と電池二輪車によるタイムレース「Ｅｎｅ－１スズカチャレンジ」の１部門で12連覇を達成した。製作材料制限なし（Ｄｉｖ１）のカテゴリーで高校１～３位を獲得した。

高校生部門で12連覇達成

Ene-1 SUZUKA Challenge

鈴鹿サーキットで、充電式単３乾電池40本を動力源とする車両と二輪車の２大会に臨んだ。今年は大幅な競技規定・規則の変更があり、車両は材料、二輪車は競技形式が変わった。

75台（高校31台）がエントリーしたＤｉｖ１には３台が出場し、高校１位（総合３位）、２位（６位）、３位（７位）に輝いた。

12連覇を果たした電動機部

チーム「ＷＩＳＤＯＭα」のドライバーで部長の３年原煌弥さん（17）は「今までにない接戦になり、タイムやメンタルで余裕がなかった中で優勝できたのは良かった」と振り返り、「前日の試走データを本番でうまくフィードバックできたことが勝因だと思う」と語った。

鈴鹿初挑戦の「ＷＩＺＤＯＭⅡ」ドライバー、１年小池永真さん（16）は「速度が速い大会で緊張もあったが、仲間が声を掛けて励ましてくれた。完走ができてホッとしている」。「ＷＩＳＤＯＭ」を操った３年篠田息吹さん（18）は「仲間と相談しながらセットアップし本番に臨んだ。チームワークでつかんだ３位」と笑みを浮かべた。

二輪車大会には１チームが出場。45台（高校17台）中、高校部門２位（総合６位）に入った。総合１位だった昨年からの連覇はならなかったが、ドライバーの３年熊谷颯太さん（17）は「調整の部分で難しかった。全力で臨めたので悔いはない」と話した。

３年生は同大会を最後に引退。13連覇を目指す新部長の２年久保田洋太さん（同）は「受け継いできた技術や知識を基に、自分たちの要素も加え、さらに成長させたい」と意気込んだ。初戦は９月15日に栃木県で開かれる「Ｅｎｅ－１モテギＧＰ」となる。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

商業科3年生
丸山公民館工作イベントを企画・運営

2024年(令和6年) 8月2日 金曜日 南信州新聞

丸山公民館

高校生企画に夢中

子ども寺子屋 キーホルダーを手作り

飯田市丸山公民館は7月29～31日、夏休み中の小学生を対象に子ども寺子屋を開いた。30日には高校生企画の工作イベントがあり、子どもたちがプラ板キーホルダー作りを楽しんだ。

高校生とキーホルダーを作る小学生

子ども寺子屋は、夏休み中の子どもの居場所づくりや規則正しい生活の支援などを目的に毎年開いている。今年は31人の小学生が参加し、多彩な企画や宿題の時間に取り組んでいる。

30日のプラ板キーホルダー作りは、丸山地区で地域人教育に取り組んでいる飯田OIDE長姫高校の3年生6人が企画、運営を担当した。

子どもたちは高校生から教わりながらプラスチックの板にキャラクターなどの絵を自由に描き、オーブンで焼き上げてキーホルダーを完成させた。

丸山小学校5年の中田向日葵(ひまわり)さん(10)はイチゴやトマトの絵を描いた。完成したキーホルダーを「かわいい」と見つめ「ランドセルにつけたい」と話した。

同高校商業科3年の金田拓海さん(17)は「子どもたちが夢中に楽しんでくれてよかった。小学生の子どもと関わる機会が少ないので自分も楽しめた」と語った。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

合同高校説明会開催
本校生も参画協力

2024年(令和6年) 8月7日 水曜日　南信州新聞

現役生が魅力伝える
高校5校の合同説明会

高校生や地元出身の大学生が企画、運営する「合同高校説明会」が4日、飯田市座光寺のエス・バードであった。飯田下伊那と上伊那地域の5校の高校生ら13人が実行委をつくり、説明役を担当。勉強や部活動など多彩な視点で、学校の魅力を率直に伝えた。

実行委代表は喬木村出身の姉妹で、いずれも都内の大学1年生の小池杏奈さん(19)と凜奈さん(同)。志望校について知る機会が少なかった経験から昨年に飯田市で初めて企画し、100人を迎えた。

高校生がリアルな学校生活を伝えた

好評だったことから、今回は開催地を拡大。飯田を皮切りに、松本市と上田市、オンラインでも開く。県教委が協力し、会場使用やチラシ印刷、開催周知などを担った。

この日は飯田、飯田風越、飯田OIDE長姫、飯田女子、伊那北の生徒が参加。それぞれのブースで、訪れた中学生や家族に学校を紹介し、勉強、部活動について話した。

学校の雰囲気についてざっくばらんに「リアルな声」を届けたり、緊張している中学生に世間話をして雰囲気をつくったり。OIDE長姫高校1年の長久保愛さん(16)は「自分も新生活に不安があった。実際の声を聞いて少しでも高校選びの参考にしてほしい」と話した。

凜奈さんは「偏差値だけでなく、やりたいこととマッチできるよう、一人一人に寄り添うサポートができれば」と話していた。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

能登半島地震被災地現地支援に出発

南信州新聞　2024年(令和6年)8月9日 金曜日

飯田市社協

被災地での経験今後に

高校生ボラ能登町へ出発

能登半島地震の被災地支援で、飯田市社会福祉協議会（原重一会長）の「高校生ボランティアワークキャンプ」の出発式が8日、市勤労者福祉センターで開かれた。飯田、飯田風越、飯田女子、下伊那農業、飯田OIDE長姫の5校から計14人が参加。1泊2日の日程で鳳珠郡能登町を訪れて被災状況を直接聞き、ボランティア活動に当たる。

出発式に臨む高校生

被災地で学んだことを持ち帰り、災害時の支えになる人材を育成する狙い。高校生は事前学習を2度行い、この日に備えた。

出発式で、原会長は「現地の絶望感、喪失感、虚無感を五感で捉え、苦しみや悲しみの中でも被災者の前を向く姿からいろいろなものを感じ取ってきてほしい」と激励した。

飯田女子高2年の森岡結衣さん（17）は「被災した人たちがどのような生活を送り、どんなことに困っているのかを知る良い機会」と語り、同校2年の代田陽織さん（16）は「現地で学んだことをしっかり持ち帰り、友だちなどと共有したい」と話した。

初日は地元の社協職員から現地の被災状況について聞く他、農家民宿群「春蘭の里」を訪ねる。自主的な避難生活が続く春蘭の里では被災直後の避難生活を聞き、住民との交流も予定。被災した家財などの片付け作業にも当たる。

訪問後に事後学習を重ね、12月に予定する市社会福祉大会で活動報告する。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

コンピュータ制御部 テックレンジャー 喬木村富田で公演

2024年(令和6年) 8月9日 金曜日 南信州新聞

夏休みの思い出に

参加対象を広げ催し

喬木村富田育成会

喬木村富田の青少年健全育成会事業の一環で「夏の思い出づくり」と題した催しが4日、南部防災センターで開かれた。中山間地の少子化が進む中、参加対象を村南部の大和知、氏乗にも広げ、子どもたちは飯田OIDE長姫高校のコンピュータ制御部員が演じるヒーロー戦隊劇「高校戦隊テックレンジャー」によるヒーローショーを楽しんだ。

毎年恒例のイベントで、今年は富田を含めた南部地区の子どもたちに声を掛け、30人ほどの小中学生が集まった。巨大風船を膨らませたりカプセルを客席に飛ばしたりする演出に夢中になり、ヒーロー役が登場し悪役とたたかう場面では「頑張れー」と大きな声援が沸き起こった。

会場には保護者や地域住民も足を運び、楽しいひとときを過ごしていた。

富田青少年健全育成会の福澤学会長(64)は「子どもの数は少なくなるが、毎年楽しみにしている子どももいる。夏の良い思い出にしてもらえたら」と話していた。

南部防災センターでヒーローショー

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2024年(令和6年)8月22日 木曜日　南信州新聞

社会基盤工学科生 施工管理技術講習を受講

OIDE長姫高

技術検定に向け猛勉強

建設業協会が受験準備講習会

県建設業協会飯田支部は19、20の両日、2級土木・建築施工管理技術検定第一次検定に向けた受験準備講習会を飯田OIDE長姫高校で開いた。社会基盤工学科で学ぶ2年生約40人が夏休み中の2日間登校し、検定合格に向けて熱心に取り組んだ。

業界の人材確保につなげる狙い。同協会が専門学校と連携協定を結び、県内の技術系高校で資格取得に向けた出前講習会を毎年実施している。

同校の講習会では、名古屋市中区にある東海工業専門学校金山校の成田節雄副校長が講師を務めた。1日6時間の計12時間をかけ、一般土木の専門知識や勤務規則などの法規関連について解説。過去に出題された問題の傾向から、特に重要とされる分野については集中的な講義をした。

講義を終えた生徒たちに向けては「みんな集中して取り組んでいた。ここからが勝負。あとは君たちの頑張りが問われる」とエール。「多くの人の後押しがあることを忘れないでほしい。試験に合格することで、自分も周りの人もハッピーな気持ちにしてほしい」と言葉を送った。

土木・建築施工管理技術検定受験準備講習会

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

南信州新聞　2024年(令和6年)8月25日 日曜日

原動機部 Ene-1 SUZUKA 12連覇を飯田市長に報告

飯田ＯＩＤＥ長姫高校電動機部と佐藤市長

12連覇を市長に報告

SUZUKAチャレンジで快挙

OIDE長姫高 電動機部

充電式単3乾電池を動力源とする自動車レース「Ene-1スズカチャレンジ」の製作材料制限なしのカテゴリーで高校生部門1位となり、12連覇を達成した飯田ＯＩＤＥ長姫高校電動機部の10人が23日、飯田市役所に佐藤健市長を訪ねた。結果を報告するとともに、次戦への意気込みを語った。

大会は7月28日に三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで行われた。レース映像をタブレットで鑑賞した佐藤市長は、トップスピードでコースを疾走するマシンの様子や運転している時の気持ちなどについて興味深そうに生徒に質問した。

優勝ドライバーの原煌弥さん（3年）が、約80キロから一気に減速するシケイン手前のブレーキングが重要なことなどを解説。上り坂では他チームが停止する例が多く、完走率は50％程度の過酷なレースだったことを振り返った。

また、出場した3台のマシンが地元企業の協力でパーツや部品を更新しながらバージョンアップしたことなど、「チーム飯田」を強調した。

佐藤市長は「高校生部門の1～3位独占はすごいこと。心から敬意を表したい。後輩の皆さんも引き継いで頑張ってほしい」と激励した。

報告を終えた原さんは「自分たちの努力を評価してもらえて良かった」と話し、新部長に就いた久保田洋太さん（2年）は「伝統ある部を引き継ぐのは名誉なこと。これまで先輩が培ってきた技術や知識をしっかりと受け継いで、チームをまとめていきたい。まずは9月に栃木県である大会で結果を出したい」と決意を語った。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

社会基盤工学科・建築学科2年生
行政機関で職場体験を実施

2024年（令和６年）8月31日土曜日　南信州新聞

ゼロエネ住宅を見学する生徒

OIDE長姫高

行政機関の職場を体験

ゼロエネ住宅や建設現場

飯田OIDE長姫高校の建築系学科の生徒が27日、県飯田建設事務所管内で建築に関わる公務員の仕事を体験した。県が取り組む社会資本整備の意義などを学ぶ座学や現地見学のほか、現場視察をしたり、ゼロエネ住宅や県営住宅の管理などを学んだりした。

計12人の2年生が参加。社会基盤工学科の4人は道路改築や砂防事業、急傾斜地崩壊対策工事現場などを視察し、建築学科の8人は飯田市大瀬木の県営住宅と豊丘村に完成したゼロエネ住宅を見学した。

県が普及を目指しているゼロエネ住宅を訪ねた生徒たちは、設計者や施工業者から建物の特徴などの説明を受けた。

同校OBで設計した一級建築士・新井優さん（66）は設計図を見せながら「住む人の思いをどう形にするかが私たちの仕事」と説明。「社会の動向や自然環境の変化などにも対応していくので、大変だが非常にやりがいを感じている」と伝えた。

施工した村澤製材の村澤和彦さん（59）も同校のOB。「県産材を多く使用しており、中でも飯田市のスギが中心になっている。地域に目を向けつつ、将来の担い手になってほしい」と呼びかけた。

スギの香りが広がる室内を案内された生徒たちは、先輩が手掛けた住宅に興味津々の様子だった。施主の小木曽利江子さん（52）は「（見学を通して）何か将来にヒントになるきっかけになれば」と言葉を送っていた。

原動機部 Ene-1 茂木大会へ

2024年(令和6年) 9月5日 木曜日 南信州新聞

全国出場の原動機部激励

OIDE長姫同窓会「大舞台を楽しんできて」

部員たちを激励する須山会長（手前は実際のマシン）

飯田OIDE長姫高校同窓会（須山和彦会長）が3日、栃木県茂木町で開かれる自動車レース「2024 Ene-1 MOTEGI GP KV-40・KV-Motoチャレンジ全国大会」(15日)に出場する同校原動機部を訪ね、激励した。レースは充電式単3乾電池を動力源とする。

須山会長は、高校生部門12連覇を達成したSUZUKAチャレンジ（7月）での活躍に触れ「これだけの成果はOBにとって誇りだ」とたたえた上で、「MOTEGIでも楽しんで結果を残してきてほしい。応援に行く」と語った。

部長の久保田洋太さん（2年）は「3年生が引退してからの初めての大会。車体と技術を受け継いだ。期待に添えるよう頑張る」と意気込みを語った。

須山会長らは、SUZUKAチャレンジで疾走する様子を、車載カメラの実際の映像で鑑賞。ドライバー目線からのコースどりやブレーキングの難しさ、最高速80キロ超のスピード感などを味わった。

MOTEGI大会は、充電式単3乾電池40本を動力源とする車両（KV-40）と二輪車（KV-Moto）の2つの部門にエントリー。ともにタイムアタック3回の合計タイムで順位を争う。

ラグビー部

創部70周年記念式典を開催

2024年(令和6年) 9月24日 火曜日 南信州新聞

「全国で勝ち進めるチームに」

OIDE長姫ラグビー部 創部70周年記念式典

飯田OIDE長姫高校ラグビー部の創部70周年記念式典が22日、飯田市錦町のシルクホテルで開かれた。OBや来賓ら約60人が出席。歩みを振り返って節目を祝うとともに、昨年57年ぶりに全国高校ラグビー大会（花園）に出場した同部のさらなる活躍を期待した。

あいさつに立ったOB会姫城クラブの横田久佳会長（63）は「一時は存続が危ぶまれた時期もあったが、今は40人を超える部員がいて、昨年は悲願だった花園出場を果たし、OBとして頼もしく思っている。勢いそのままに長野県をけん引し、全国で勝ち進めるチームになってほしい」と力を込めた。

式典では70年の歩みを振り返るDVD上映などもあり、祝賀会では切磋琢磨したかつての仲間と思い出話に花を咲かせた。記念品としてOB会から部にユニホームを寄贈した。

この日の午前中は市総合運動場で岐阜県の関商工高校との招待試合があったが、落雷のため途中で中止し、OB戦も行わなかった。

飯田長姫高校ラグビー部は1954（昭和29）年に創部。飯田工業高校ラグビー部は62（同37）年に同好会として発足した。長姫は66（同41）年に県大会を制して初の花園に出場した。

2013年に学校統合。18年からは、飯田高校で08年に主将として花園を経験し、天理大でも主将を務めた中村光希監督が指揮を執る。現在は県内最多の44人の部員を抱え、3年生が日替わりで主将を務めるのがチームの特徴だ。

昨年は7人制で初めて全国大会に出場すると、全国高校ラグビー大会県予選でも優勝し、長姫時代から57年ぶりに花園の地を踏んだ。今夏の7人制大会も2年連続で全国に出場するなど、飯田・岡谷工業の2強時代が続いていた長野県高校ラグビー界で新たな時代を築きつつある。

記念式典で節目を祝った

北信越高校野球県大会 2回戦
南信2位で臨むも
松本国際にタイブレークで敗退

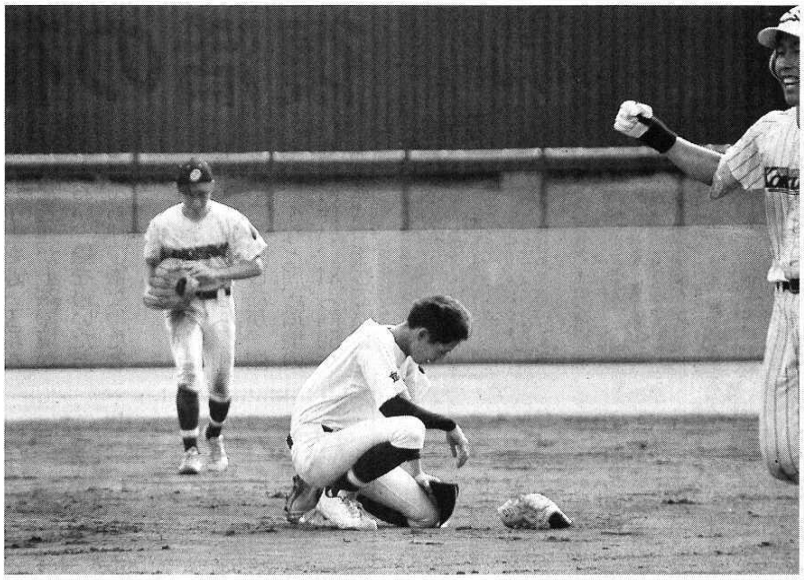
2024年(令和6年) 9月24日 火曜日　南信州新聞

飯田、O長は2回戦敗退
高校野球秋の県大会

第151回秋季北信越地区高校野球県大会は21、22日、1、2回戦16試合を長野県営球場などで行った。飯田（南信6位）は1回戦で上田（東信3位）に9－0で勝利したが、2回戦で長野俊英（北信2位）に0－8で敗退。2回戦から登場の飯田OIDE長姫（南信2位）は松本国際（中信3位）に2－3でサヨナラ負けを喫した。

高校野球

▽1回戦（県営上田野球場）
上田 0000000 0
飯田 2021104× 9
（七回コールド）
（上田）鰐澤、井出、中村－篠原
（飯田）下平、松村－久保田
▽③岩下、片桐（飯）
▽②岩田、岩下、久保田（飯）
▽2回戦（県営上田野球場）
飯田 0000000 0
長野俊英 0000008× 0
（七回コールド）
（飯田）下平、松村－久保田
（俊英）田中、古越－島岡
▽②屋本、元田（俊）


延長戦で敗れたOIDE長姫

主戦好投も延長で競り負け
O長2回戦

延長戦の末、勝利にはあと一歩届かなかったものの、投打で粘りを見せて最後まで接戦を展開。井口監督は「ナイスゲームだった」と選手たちをたたえた。

先発した主戦の畔上は、立ち上がりこそ微妙な制球に苦しみ2点を失ったものの、「腕を振って枠内に強い球を投げ込むことを意識した」と修正に成功。緩急を駆使し、粘り強く投げ抜いた。何度も走者を出しながらも、「打者と勝負することに集中した」と冷静で、三回から九回までスコアボードにゼロを刻んだ。

タイブレークの延長十回、先頭打者の送りバントが内野安打になり、不運な形で無死満塁のピンチを背負ったが、最後まで強気に投球。右前に運ばれ、サヨナラ打となったが「打者と勝負した結果なので悔いはない」と話した。

秋の大会を南信予選から振り返り「新チームでスタートし、自分が抑えなければと気負っていたが、仲間が声を掛けてくれて助けられた」と感謝。「良いチームになってきたと思う」と充実の表情を浮かべた。

▶2回戦（長野県営球場）
OIDE長姫 0001100000 | 2
松本国際 1100000001× | 3
（延長10回、タイブレーク）
（O長）畔上－松下
（松国）和田、小林－荻田
▷③上原（O）

【戦評】OIDE長姫は2点を追う四回、3番上原の三塁打と相手の暴投で1点を返すと、五回は1死二塁から2番関島の適時打で試合を振り出しに戻した。主戦畔上の好投もあり、試合は延長戦に突入したが、タイブレークで無死一、二塁から始まる十回の攻撃は無得点。畔上を援護できず、その裏にサヨナラ負けを喫した。

原動機部

Ene-1 茂木グランプリ
出場全台入賞
KV－40 高校生部門 2位

2024年（令和６年） ９月29日 日曜日　南信州新聞

「モテギＧＰ」で好成績

ＯＩＤＥ長姫 原動機部 ２部門３台が入賞

飯田ＯＩＤＥ長姫高校原動機部が15日、栃木県茂木町で開かれた電池自動車と電池二輪車によるタイムレース「２０２４エネ―１モテギＧＰ」に臨み、２部門に出場した３台すべてが入賞した。

大会はモビリティリゾートもてぎ（１周４・８キロメートル）で開かれ、同部は充電式単３乾電池40本を動力源とする車両と二輪車の２大会に臨んだ。３回のタイムアタックの合計タイムで順位を競った。

充電式単３乾電池のレース（ＫＶ―40チャレンジ）では、一般11、大学高専15、高校17、中学２の計45台がエントリーした製作材料制限なしのカテゴリーに２台を投入。高校部門２位（総合３位）、４位（８位）の好成績を納めた。

一般11、大学高専11、高校13の計35台が出場した二輪車のレース（ＫＶ―Ｍｏｔｏチャレンジ）には１台が出場し、高校部門３位（総合９位）に入った。

充電式乾電池のレースで高校部門２位となったドライバーの宮下昊翔（こうしょう）さん（17）を含む３人のドライバーは、いずれも大きな大会への参戦は今回が初。宮下さんは「自分のベストを尽くしたつもりだったが、ラインどりやブレーキングで苦戦したのが敗因。次は勝ちたい」とし、同部門４位のドライバー、熊谷蓮太さん（16）は「２回目のタイムアタックまでは20秒差で勝っていたが最後のアタックで逆転されてしまった。上位と渡り合える自信がついたので次につなげたい」と前を向いた。

二輪車のドライバー、小川隼橙（しゅんと）さん（16）は「まずは完走できたことが良かった。（軽量化の一環で）ウエイトを落とすことが課題。次までに準備したい」と見据えた。顧問の中村秀一教諭は「ルール変更や３年生引退でメンバーが代わる中での大会だったがよく頑張った。モーター改造などチャレンジして臨んだが、他チームの作戦が上回った」と総評した。

モテギＧＰに出場した飯田ＯＩＤＥ長姫高の原動機部

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

令和6年度前期 電気・機械系国家資格 取得者報告会

第一種電気工事士	1名
第二種電気工事士	21名
技能検定３級	
・機械保全電気系保全	3名
・フライス盤作業	3名
・機械検査	7名

2024年(令和６年)10月4日金曜日　南信州新聞

電気・機械系資格に合格

OIDE長姫高 校長に喜びを報告

飯田OIDE長姫高校で9月27日、資格合格報告会が開かれた。機械系・電気系の各種国家資格・検定に合格した生徒が宮澤直哉校長に喜びを語った。

校内で開かれた資格合格報告会

機械工学科、電子機械工学科、電気電子工学科の生徒が7月の資格試験に臨み、第一種電気工事士に1人、第二種電気工事士に21人、機械保全電気系保全作業3級に3人、フライス盤作業3級に3人、機械検査3級に7人が合格した。

電子機械工学科2年の水島透愛さん(16)はフライス盤作業3級と機械検査3級の2つに合格した。「先生や講師の方にお世話になり、合格できた」と語り、「さらに上の資格を取得して、進路に生かしたい」と話した。

電気電子工学科3年の今牧勇雅さん(18)は「2カ月の練習期間でみるみる作業ができるようになって自信になった。先生には放課後にも指導していただいた。合格できてホッとしている」と語り、胸をなで下ろしていた。

宮澤校長は「日々の努力、研さんと指導のたまもの。社会人や学生になっても技を磨いていってほしい」とエールを送った。

ラグビー部

地元企業から ボールを寄贈していただきました

2024年(令和6年)10月9日 水曜日　南信州新聞

南信州のラグビー発展に

イーアーツ電工 飯田、O長高にボール寄贈

飯田市北方のイーアーツ電工（木下敦夫社長）と高森町出原の飯田建設（三石芳久社長）が飯田高校と飯田OIDE長姫高校のラグビー部にボールを寄贈した。3日に両社の社長が両校を訪れて部員に手渡した。

イーアーツ電工の木下社長が飯田工業高校（現飯田OIDE長姫高校）ラグビー部出身だったことから初めて企画。飯田建設の三石社長も賛同して両校に7個ずつ贈った。

飯田高にボールを贈る両社の社長

寄贈式で木下社長は「昔は岡谷工業が強かったが、今は南信州の学校が強くなってきてうれしい。南信州のラグビーの発展に少しでも力になれたら」と語り、三石社長は「つらい練習を乗り越えた経験は社会人になって必ず役に立つので頑張ってほしい」とエールを送った。

飯田高3年でキャプテンの北原慎一朗さん（18）は「（寄贈を受けたボールは）ボロボロになるまで使いたい」、OIDE長姫高3年の後藤慶伍さん（17）は「花園に出場できるように練習に励みたい」と感謝を伝えた。

全国高校ラグビー大会（花園）の県予選は今月開幕する。OIDE長姫は初戦で岡谷工業と、シードの飯田はOIDE長姫と岡谷工業の勝者と対戦する。

2024年(令和６年)10月13日 日曜日　南信州新聞

羽場こども未来園児と水引で交流

水引で園児と交流

ＯＩＤＥ長姫高生　羽場文化祭では「水」ＰＲ

飯田ＯＩＤＥ長姫高校商業科３年の生徒７人が11日、飯田市白山通りの羽場こども未来園を訪れ、園児と水引体験で交流した。

生徒たちは地域の課題解決に取り組む地域人教育の一環で、若者が戻ってくるまちづくりに向け、飯田の魅力の再発見に取り組んでいる。その中で飯田には多くの文化があり、文化の原点には「水」が共通していることを知り、飯田の文化や水の魅力を広める活動をしている。

この日は年長園児10人が参加し、水引飾りや小物を入れた小瓶のアクセサリー作りに挑戦。ビーズや花形のスポンジなど多様な小物を選びながら、思い思いに小瓶に詰め込んでいった。小物の中には生徒が作った水引の梅結びもあり、園児たちも棒に水引を巻くなど水引に触れた。

園児と生徒は終始笑顔で触れ合いを楽しみ、最後は生徒が作った水引の花を園児にプレゼントした。同校の松下芽維さん（18）は「園児たちが喜んでくれるか不安もあったが、楽しんでもらえてうれしい。水引を身近に感じてくれたら」と話していた。

水引体験で園児と触れ合う飯田ＯＩＤＥ長姫高校の生徒たち

生徒たちは11月２日の同市羽場地区の文化祭にも参加し、飯田の水をＰＲするブースを設ける。水引体験のほか、地元の名水「猿庫の泉」でいれたコーヒーを提供。和菓子屋の船橋屋も協力し、猿庫の泉を使ったくずもちバーを販売する。

祝 最優秀賞 2C 森山月光さん 全国大会出場

2024年(令和６年)10月19日 土曜日 南信州新聞

課題解決へ活用提案

ロボットアイデア甲子園 初の南信州大会で発表会

高校生らが産業用ロボット活用のアイデアを競う「ロボットアイデア甲子園」の南信州大会の発表会が12日、飯田市座光寺のエス・バードで開かれた。飯田下伊那地域の高校や専門学校に通う生徒６人がエントリーし、ロボット活用の新しいアイデアを発表。飯田ＯＩＤＥ長姫高校電気電子科２年の森山月光（らいと）さん（17）が最優秀賞を受賞し、12月の全国大会に出場する。

ロボットアイデア甲子園は22の地方大会があり、南信州大会はその一つとして今年初めて開催した。地元製造業３社の社長でつくる実行委員会が主催し、南信州・飯田産業センターが協力し、飯田市と飯田信用金庫が後援。12社が協賛した。

発表会に先立ち、7月に同市川路の三和ロボティクスで見学会を実施。生徒６人は実機操作を体験し、見学会でアイデアレポートを作成した。

この日生徒たちはレポートに基づいて考えた具体的なアイデアを発表。社会問題の解決につながるアイデアを考案し、ロボットのデザインも見せながら、経済効果から販売価格まで説明した。

最優秀を受賞した森山さんは果樹農家の人口減少対策になり、地域に貢献できるとして「果樹収穫ロボット」を考案。夜間でも収穫できるようカメラを搭載し、不審な動きに警告音を鳴らすことで、果実の盗難や鳥獣被害を防止できるとした。

森山さんは受賞に「驚いている」と感想を述べ、全国大会に向け「戦場に向かう兵士のような気持ちだが、農家を助けたいという思いを伝えられたら」と語った。

実行委員長を務めた三和ロボティクスの沢宏宣社長は「発表はどれも素晴らしく、生徒たちは大会を通じて成長したと思う。企業や地域との交流の場にもなり、今後も続けていけたら」と話した。

ロボットアイデア甲子園南信州大会に出場した生徒の皆さん

栄和測量様（地元OB企業）より トランシーバーを寄贈していただきました

2024年（令和６年）10月24日 木曜日　南信州新聞

地元就職率向上に貢献を

八十二銀行私募債活用　栄和測量が○長高に寄贈

飯田市鼎中平の栄和測量（矢澤久実社長）は18日、八十二銀行の「地方創生・ＳＤＧｓ応援私募債」を活用し、飯田ＯＩＤＥ長姫高校に最新式のトランシーバー５機を寄贈した。

同私募債は、八十二銀行が発行企業から受け取る引き受け手数料の一部を割り引き、発行企業が割り引き分で指定する企業や教育文化施設に学校用品などを寄贈する商品。

栄和測量が同私募債を活用するのは３回目で、前回も同校に寄贈した。同校は矢澤社長の母校で、県測量設計業協会南信支部会員として課外授業に協力。毎年、同校生徒のインターンシップを受け入れている。

寄贈式は同校で開き、矢澤社長と宮澤直哉校長、八十二銀行鼎支店の岩嶋直樹支店長らが出席した。矢澤社長は「生徒の授業の助けになれば。自社のＰＲとともに地元就職率の向上に貢献したい」と話し、宮澤校長は「地元産業界の協力のおかげで生徒が授業で本物に触れられる。機材は不足しがちで継続的な寄贈はありがたい」と感謝していた。

飯田ＯＩＤＥ長姫高校で開いた贈呈式

テックレンジャー

建設フェスタで公演

2024年(令和６年)10月24日 木曜日　南信州新聞

建設・製造業に興味を

綿半ソリューションズ「建設フェスタ」初開催

綿半グループで建設・製造事業を担う綿半ソリューションズは19日、「建設フェスタ」を同社飯田工場（高森町下市田）で開いた。家族連れを中心に多くの来場者があり、楽しみながら建設業・製造業の魅力に迫った。

建設・製造の仕事に興味を持ってもらい、綿半ファンを増やそうと初開催。３月には関係者家族向けにプレイベントを開いた。神稲建設（本店・飯田市主税町）が協賛、綿半グループ各社が協力した。

工場見学は４回開き、各回定員いっぱいの30人が参加。参加者は、大型物件の資材となる鉄骨を加工する工場内を見て回った。工場見学はインターンシップ以外では実施していないため、一般向けの公開は初めてとなった。

高所作業車やタイヤローラーなど大型作業車の試乗体験、飯田ＯＩＤＥ長姫高校による「高校戦隊テックレンジャー」ショーなど、一日を通して楽しめる企画で盛りだくさんだった。

松澤宏典取締役（47）は関係者への感謝を述べ「目をキラキラさせて見てくれる子どもたち姿があり、うれしく思う。継続的に開催できれば」と話していた。

会社概要の説明を受ける工場見学の参加者

建築学科生徒

「瓦」屋根の魅力を学ぶ

伝統のプロの技術を直接学習

2024年(令和６年)10月25日 金曜日　南信州新聞

伝統「瓦」の魅力伝える

ＯＩＤＥ長姫高生に講義

瓦事業組合

県瓦事業組合南信支部は21日、飯田ＯＩＤＥ長姫高校の建築学科の生徒を対象に、瓦の歴史や施工方法などを伝える勉強会を開いた。

伝統的な建築技術としての瓦屋根をより深く知ってもらおうと、10年ほど前から続けている。当初は同支部青年部が主催していたが、今年から同支部が実施している。

支部会員５人が学校を訪れ、瓦の歴史や種類、特徴・性質、形状などを紹介。場所を移して開いた実技では、生徒たちが実際に屋根と瓦の間に漆喰を塗り、仕上げていく工程を学んだ。地震や台風対策の一環として整備されたガイドラインに基づき、鉄筋やくぎなどで固定し強度を上げる最新の施工技術も体験した。

施工作業を体験した今村環希さん(16)は「ネジなども使って固定していることが分かった。一枚一枚を屋根に仕上げていく作業は大変だと感じた」と語り、大邊寿美香さん(同)は「思っていた以上に工程が多くて驚いた。将来のための勉強になった」と話していた。

同組合南信支部長の松澤克友さん(56)＝光伸製瓦、喬木村＝は「日本に伝来して１４００年。気候や風土に適応しながら今の姿になった。経済性、断熱性、耐火性、耐寒性、耐水性、防音性に優れているのが瓦。良さや魅力を知ってもらい、一人でも多くの担い手が生まれてくれたらうれしい」と話していた。

瓦施工を巡っては、阪神淡路大震災後の１９９８年に、瓦屋根の耐震・耐風性能を満たすための瓦屋根施工方法「施工ガイドライン」が定められた。

瓦屋根の施工体験をする生徒たち

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

川路ハロウィーンパレード
本校生協力

2024年（令和６年）10月30日　水曜日　南信州新聞

菓子を配る側も楽しむ
四半世紀続くハロウィーン

飯田下伊那地域では特に古くから続いているハロウィーンパレードが26日、飯田市川路であった。仮装をして地区内外から集まった子ども141人がお菓子をもらいながら3区周辺を歩き、仮装をして出迎えた住民と交流した。

主催者は地区内在住の保育士、鈴木志野さん（57）。飯伊ではまだハロウィーンが一般的ではなかった1999年に、当時住んでいた座光寺のアパート周辺で始め、2016年からは自宅を建てた川路で続けている。

26回目の今年も稲橋ホンダ商会の裏手から、鈴木さん宅までの約800㍍を行進。茶色いカラー舗装の県道沿いには、住民や飯田OIDE長姫高校の生徒が家の前で待ち受け、「トリック・オア・トリート！（お菓子をくれないといたずらしちゃうよ）と話す子どもに用意した菓子を手渡した。

川路では「家族の触れ合いにつなげたい」（鈴木さん）という考えから手作り感を大切にしており、家庭で手縫いした衣装を着てくる子どもの姿も。オレンジのカボチャはハロウィーン用に栽培している。

沿道の家庭も回数を重ねる中で「自分たちも楽しもう」という機運が徐々に高まり、日用品をアレンジして家の前を飾り付けたり、自分たちも仮装をするなど、長く続いているイベントならではのムードが漂っている。

仮装をした弟、母親と3人で参加した清水風花さん（10）は、ゴール地点で記念撮影を楽しむと「今年も楽しかった」と笑顔で話した。

鈴木さんは「長く続けているので常連さんも多くいる。『また来年も来たい』という声が多く聞けてよかった」と話した。

ゴール地点の装飾に見入る子どもたち（川路で）

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

鼎小学校４年生 探検隊来校

専門学科の研究や技術を紹介

2024年(令和６年) 11月３日 日曜日 南信州新聞

高度な技術にビックリ

鼎小４年生が職業高校を探検

飯田市鼎小学校の４年生が１日、「地域を知る」をテーマにした総合的な学習の時間で近くの飯田ＯＩＤＥ長姫高校を訪ね、職業高校の中で行われている研究や取り組みを学んだ。ロボット製作の現場やコンピューターを使った研究などを実際に体験し、高度な技術に目を丸くする場面もあった。

高校側では27の研究や取り組みを用意。児童たちは工業棟や建築棟の各教室や研究室を探検するように巡った。

お金選別ロボットの製作現場では、トレーの上に無造作に置かれた硬貨や紙幣から、指示されたお金を判別してつまみ上げるロボットの動作を見学した。「細かい部品がたくさん使われている」や「どうやって見分けているのか不思議だ」などの感想や疑問が次々と上がっていた。

このほかにも、電動車いすを製作している教室では、パソコンの操作だけで、ライン上を車いすが自動で移動する様子に驚きの表情。実際に腰掛けてみた児童は「動きがなめらか」「座り心地がいい」などと語っていた。

小学生を迎えた宮澤直哉校長は「普通科高校との違いは実習の時間があること。実際に見て学び、通いたいと思ってもらえたらうれしい」と言葉をかけた。

お金選別ロボットの動きに注目する児童たち

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

羽場地区文化祭 本校生徒出店
商業科地域人教育の取組み

2024年(令和6年)11月5日 火曜日　南信州新聞

多彩な催しに住民集う

羽場地区文化祭　O長高生の出店も

飯田市羽場地区の文化祭が2、3の両日、羽場公民館と羽場中央公会堂で開かれた。特別企画として飯田OIDE長姫高校商業科の生徒が出店。2日はあいにくの雨だったものの、3日は好天となり、作品展示や芸能発表、駅伝大会など多彩な催しを多くの住民が楽しんだ。

飯田OIDE長姫高校の生徒は地域人教育の一環で、飯田の文化を学習。文化祭では2日に出店し、水引体験で梅結びなどを教えた。菓子店の船橋屋が協力し、同地区の名水「猿庫の泉」を使ったくずもちを販売。泉の水で入れたコーヒーも振る舞った。

同校3年の原瑞稀さん(18)は「雨で心配したが、思った以上に人が来てくれてうれしい。活動を通して飯田の文化にいかに水が大事かを知り、地域の人の温かさと郷土愛を感じた」と話した。

文化祭のオープニングセレモニーでは飯田西中学校吹奏楽部が演奏し、羽場獅子舞保存会が演舞を披露した。公民館全体を使い、小中学生や地域サークルの作品を展示。今年は新たに個人2人が絵画を出展した。

2日は芸能発表会を開催し、昨年を上回る12組が出演。飯田西中生徒とまちづくり委員会との座談会を開いた。3日は羽場セントラルパーク周辺で39回目の駅伝大会も開いた。

実行委員長の佐々木祥二公民館長は「コロナ禍以降少なくなった個人の出展が戻りつつある。発表の機会とともに、住民が集う場になっている」と話した。

飯田ＯＩＤＥ長姫高校の生徒も出店し水引体験などを企画した

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

吹奏楽部 第12回定期演奏会を開催

2024年(令和6年)11月6日 水曜日　南信州新聞

大河ドラマの曲を重厚に

吹奏楽部が定期演奏会

OIDE長姫高

飯田OIDE長姫高校の吹奏楽部は2日、第12回定期演奏会を飯田市高羽町の飯田文化会館で開いた。在校生や保護者、卒業生ら多くの観客が見守る前で、練習を積んだ多彩なジャンルの曲を披露した。

1年生11人、2年生10人、3年生6人の計27人で構成し、コンクールや演奏会に向けて日々練習を積んできた。3年生が抜けるため、定期演奏会は同じメンバーで奏でられる最後の発表の場となった。

3部構成で、1部が同部の単独演奏、2部がスタジオジブリの名曲集、3部がOB・OGとの合同ステージ。映画インディ・ジョーンズのメインテーマ「レイダース・マーチ」で幕開けし、ノリの良さとキレのある演奏で、冒頭から聴衆を魅了した。

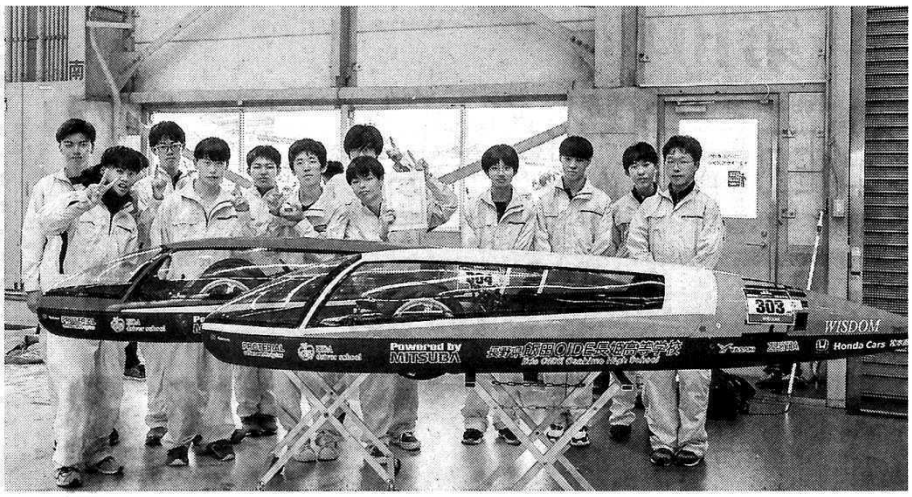
NHK大河ドラマから「麒麟がくる」(2020年)と、「軍師官兵衛」(14年)のメインテーマも披露。曲紹介では「オーケストラと日本の文化を融合した曲で、武士の精神性を重んじた音楽を楽しんでほしい」とし、テンポや曲調の変化で主人公の特徴や人生の浮き沈みなどを表現すると大きな拍手が送られていた。

飯田OIDE長姫高吹奏楽部の定期演奏会

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2024年(令和6年)11月9日 土曜日　南信州新聞

祝 原動機部 高校エコカーレース総合大会 連覇



高校エコカーレース総合大会に出場した原動機部

高校エコカーレース連覇

OIDE長姫原動機部

10日の岸和田大会に弾み

飯田OIDE長姫高校の原動機部の2台が10月26日に愛知県豊橋市で開かれた「第22回高校エコカーレース総合大会」に出場し、優勝と4位の好成績を挙げた。同大会では連覇で、10日に大阪府岸和田市で開かれる「2024エコデン全国大会」に向けて弾みをつけた。

とよはし産業人材育成センターの1周約400㍍のコースを、当日に配布されたバイク用12Vバッテリーを動力源とする車両で50分間走る耐久レース。周回数の多さで順位を争った。車体構造素材などに指定がない「オープンクラス」に同部の2台を含む21台がエントリーした。

大会2連覇を果たしたマシン「WISDOMⅡ」を操った尾曽陽生さん(15)は「走る前はとても緊張していたが、走行中には的確な情報提供や励ましもあって、支えてもらいながら結果を残せた」と安どの表情を浮かべた。チームリーダーの清水蓮さん(同)は「50分間走り続けることを目標としていたが、結果として優勝できたことは良かった」と振り返った。

4位だった「WISDOM」のドライバー、熊谷蓮太さん(16)は「ライバル校に差をつけられる場面があったが、最後まで走り切り、あと少しで2位というところまで追い込めたことは今後につながる」と前を向いた。リーダーの櫻井煌成さん(同)は「悔しい大会になったが、ベストは尽くした。岸和田に向けて改善していきたい」と語った。

エコデンレース全国大会は10日、岸和田市の岸和田競輪場で開かれる。全国から30台の参加が予定されている。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

丸山区文化祭に出店協力

2024年(令和6年)11月13日水曜日　南信州新聞

多彩な発表住民集う

丸山は中高生協力、餅投げも

飯田市丸山地区の文化祭（実行委員会主催）が9、10の両日、丸山公民館であった。今年は5年ぶりに餅投げが復活し、中高生も開催に協力。2日間とも晴天となり、子どもから高齢者まで多くの人でにぎわった。

9日は丸山小学校の金管バンド「かざこしジュニアバンド」の演奏で開幕。約100人が集まり、くす玉を割って開催を祝った。

両日とも芸能発表を開き、地元のサークルや園児、小中学生が音楽や踊りなどを披露。丸山小、飯田西中生による人形劇や、今年の全国中学校体育大会で県勢初優勝を果たした「ポミエ新体操クラブ」による演技もあった。丸山の文化祭は夜にも芸能発表があるのが特徴で、最後は参加者全員で丸山行進曲を踊った。

同館にある石窯を使ったピザ作りやパン焼き体験では、まるやま石窯部とともに飯田西中生が協力。来場者は自分で作った焼きたてのピザやパンを楽しんだ。

館内全体に20以上の団体が作品を展示し、個人による出品もあった。公民館前はポップコーンや綿あめなどの販売でにぎわい、飯田OIDE長姫高校の生徒も出店した。

閉会セレモニーでは丸山小の合唱アンサンブル部が歌い、最後は5年ぶりの餅投げをして盛り上がった。

藤本清明公民館長は「笑い、楽しみ、そして感動をテーマに開いた。発表の場があることが大事。地域の子どもたちからお年寄りまで集まる催しがあることで地域の活性化につながる」と話していた。

5年ぶりに復活した餅投げ

野底山森林公園ライトアップ

商業科３年生が

イルミネーションを制作

2024年（令和６年）11月14日　木曜日　　南信州新聞

ライトアップで幻想的に

野底山森林公園　紅葉が見頃迎える

飯田市上郷黒田の野底山森林公園で紅葉が見頃を迎え、夜はライトアップが園内を彩っている。赤く染まったモミジが幻想的に照らされ、来園者を楽しませている。16日まで。

ライトアップは2011年に始まり、現在は下黒田の有志約40人でつくる「繋（つなぐ）」が主催している。同会によると、今年は例年より10日ほど遅れて色づき始めた。

モミジを照らす約20灯の照明のほか、色とりどりの和傘約10本や飯田OIDE長姫高校商業科の3年生が制作した竹宵、アーチ状のイルミネーション、ペットボトル型のLED照明「ペットボタル」なども設置し、園内の広場や道をカラフルな光が演出している。

地元保育園の園児がプラスチックコップで制作した飾りや、自分の影を映して写真を撮れるシルエット撮影スポットなどもある。

繋の野牧詔男代表（66）は「今年は色づきが遅かったがようやく見頃となった。ライトで照らされた夜の紅葉を楽しんでもらえたら」と話し、暖かい服装での来場を呼び掛けている。

ライトアップは午後5時から同9時まで。

ライトアップや和傘が園内を彩っている

阿南町駅伝に本校生徒協力

2024年(令和6年)11月19日火曜日　南信州新聞

1D城田陸斗さんチーム優勝

阿南駅伝に27チーム

ロードレースにも31人出場

阿南町の「みんなで走ろう駅伝競走大会」が16日、西條のコミュニティの森一帯で行われた。クラスや職場、地域の仲間で結成した27チームが出場。町民体育館グラウンドをスタート・ゴールとする計5区間13・2キロでたすきをつないだ。

親睦を深めながら楽しく競争することで強健な心身を培い、魅力的で活力ある地域づくりを進める狙いで1978(昭和53)年に始め、47回目。近年は1周3キロの周回コースを5周する形式で行っていたが、今年は参加者の声を受けて変更し、いずれも町民グラウンドを発着点としつつ、1、4区を1・5キロ、2、5区を3キロ、3区を4・2キロにして変化を持たせた。

駅伝は午前8時50分に各チームが一斉にスタート。小学生と一般の2部門で順位を競った。選手はグラウンドや沿道に集まった町民らの声援を受け、各区間で熱走した。

一般の部は、阿南第一中学校出身の高校生と教員でつくる「NEO・勝鯛」が優勝。3区で8位から2位に順位を上げ、5区でトップに立った。3区を走った主将の城田陸斗さん(16)＝飯田OIDE長姫高1年＝は「最高のメンバーで走り、優勝できて良かった」と笑顔だった。

昨年に新設したロードレース部門も引き続き行い、31人が個人対抗で1・5キロのコースを走った。1位でゴールした富草小学校3年の勝野晃生君(8)は「最後にグラウンドに帰ってきたところで1位になった。応援が力になった」と話していた。

27チームがたすきをつないだ阿南駅伝

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

「オーケストラと友に音楽祭」の基礎コース講習会が本校で開催されました

2024年（令和６年）11月20日　水曜日　　南信州新聞

基礎こそ上達の早道

名フィル迎えて講習会

オケ友

「オーケストラと友に音楽祭」の実行委員会は17日、中高生と一般が演奏の基礎を見直す講習会「基礎コース」を飯田市の飯田ＯＩＤＥ長姫高校で開いた。昨年より40人多い176人が参加し、名古屋フィルハーモニー交響楽団員からパートごとに指導を受けた。

プロの演奏家から楽器の構え方や基礎的な奏法、基礎練習の方法が学べる年に２回の機会で、管楽器・打楽器コースの初級は100人、中級は60人、弦楽器コースは16人が受講した。

176人は過去９年で最多。特に中学生が増加傾向にあり、事務局は「名フィルによる質の高い昨年の基礎コース、今年の音楽クリニックが自分の成長につながったと感じ、再受講した人が多いからではないか」とみている。

35人から申し込みがあったクラリネットでは、講師の浅井崇子さんの指導で舌を使った技法のタンギング、左手と右手の練習を重ね、徐々にフレーズの難易度を上げてレベルアップを後押し。後半では音階練習を繰り返してしめくくった。

浅井さんは「基礎練習は技術の向上に一番つながる。タンギング、指の動かし方の練習によってレベルは少しずつ上がるから、毎日の練習に取り入れて」と呼び掛けた。

終了後には質問の時間があり、自分のクラリネットに名前を付けて大切にしているという飯田風越高校1年の塚平陽介さん（15）は、浅井さんの楽器にも名前があるか尋ねて場の雰囲気を和ませた。

小学生時代から楽器に親しみ、クラリネット歴は3年半の塚平さんは「歯を痛めて一時期吹けず、最近練習に復帰したのでレベルを上げようと受講した。基礎を振り返ることができ、これからも頑張ろうという気持ちになれた」と話した。

練習終了後には和みのひとときも（飯田ＯＩＤＥ長姫高で）

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

原動機部がデモ走行を披露しました。

南信州新聞　2024年（令和６年）11月26日　火曜日

環境先進地を目指し

飯田で　企業や団体、行政がメッセ

二酸化炭素（CO_2）排出量を実質ゼロにするゼロカーボンの活動推進見本市「南信州環境メッセ２０２４」（実行委員会主催）が23、24の両日、飯田市座光寺のエス・バードで開かれた。ゼロカーボン社会の実現に向けて積極的に取り組む企業や団体、行政、学生らが集合。「環境先進地」を掲げて屋内外でイベントを繰り広げた。

ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）、エシカル消費、ゼロカーボンといった観点から、環境への取り組みを深める狙い。例年並みの60団体が出展・発表し、２日間で約１５００人が来場した。

オープニングセレモニーで中島武津雄実行委員長は「見て、体験して、学んで、楽しんでゼロカーボンをはじめとする環境について考えるきっかけにしてほしい」と呼び掛けた。信州大学のグリーン水素・水循環「実証タウン」に飯田が選定されたことにも触れ、「世界をリードする水の研究が南信州地域の活性化につながることを期待したい」と語った。

初日は県の「ゼロカーボンミーティングin南信州」が開かれ、Climate Integrate代表の平田仁子氏が「地域から大きな一歩を～気候危機の今～」と題して基調講演。「主役は私たち！南信州が目指す未来に必要な行動とは」をテーマにしたパネル討議もあった。

２日目はエコレンジャーショー、エシカルシンポジウム、自然環境保全ポスター入賞作品表彰式、飯田ＯＩＤＥ長姫高校の生徒が製作した競技用車両のデモ走行、次世代自動車の試乗体験など多彩な内容で来場者を迎えた。

サブテーマに「リニアとともに地域がにぎわう環境先進地を目指して」を掲げ、県やＪＲ東海と連携した特別展示も好評だった。

２０２０年に「南信州環境フェア」として始め、21年に名称を環境メッセにあらためた。

環境への取り組みなどを聞く来場者たち

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

「マルチスポーツ」に親しむ講座が本校を会場に開催されました。

2024年（令和６年）11月29日　金曜日　南信州新聞

可能性の発見に 多種目挑戦

「マルチスポーツ」講座に60人

複数の種目に挑戦して身体機能の向上やけが防止につなげる「マルチスポーツ」に親しむ講座が24日、飯田OIDE長姫高校であった。飯田下伊那地域の児童生徒約60人や保護者、指導者が参加。世界のマルチスポーツ事情を学び、複数の種目でプロコーチから指導を受けた。

飯田下伊那地域の児童生徒を対象にしたまちのクラブ活動「エンジョイスクエア」の講座の一つ。所属する部活動などとは異なる競技も経験し、複数のコミュニティーへの所属を通じて社会性や協調性を育む機会にもとの願いを込めた。

子どもたちは、バドミントン、卓球、バレーボール、フットサル、ペタンクの中から2つを選んで他校の子どもたちと交流しながら挑戦した。

バレーボールはVC長野トライデンツジュニア女子監督の山本憲吾さんが指導。「私も子どものころはバレーボール以外もやっていた」と語り、スパイク動作を意識したリズム感を養う体の使い方なども指導した。

座学では筑波大学体育系教授で体育スポーツ局アドミストレーション部門長を務める大山高氏が、世界のマルチスポーツの現状を説明した。ニュージーランドや豪国、英国などは部活で年2種目、米国は3シーズンに分けて取り組んでいると伝え、「日本のように1つの種目をやり続けることは稀」と指摘。学校での練習量・時間も少ないとし、「世界で当たり前となっているマルチスポーツについて、この機会に考えてほしい」と呼び掛けた。

豊丘中学校2年の久保田花蓮さん（14）は「部活ではバレーボールをやっているけど、もう1種目はフットサルを選んだ。以前少しだけやったことがあったけど、しっかり教わったので継続的に楽しめたら」と話していた。

マルチスポーツを体験する子どもたち

世界のマルチスポーツを大山氏から学んだ

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

南信州新聞　2024年(令和６年)12月4日 水曜日

2年生が地元企業の説明会に参加しました

来年の就職活動に役立てて

高校２年対象の企業説明会

高校２年生対象の企業説明会

飯田職業安定協会

飯田職業安全協会は2日、高校2年生を対象にした企業説明会を飯田市座光寺のエス・バードで開いた。飯田下伊那地域の8高校のうち7高校から約400人が参加。さまざまな業種の地元企業84社から説明を受けた。

協会は高校3年生向けの企業説明会も開いているが、高校生の早い時期から地元企業の事業内容を知って来年の就職活動や進学後の進路決定に役立ててもらおうと、2年生向けの説明会も毎年開いている。

参加企業は例年より多いといい、製造や建設、飲食、医療など多種多様の業種のほか、進学の選択肢として飯田短期大学と飯田コアカレッジも参加した。

午前の部には飯田OIDE長姫高校の2年生全員、午後の部には他の6校の希望者が参加。生徒たちは事前に選んだ事業所のブースを訪れて25分間ずつ説明を受けた。

事業者側はモニターやパンフレットを用いて企業理念や業務内容を説明。福利厚生の充実に取り組んでいることなども紹介し、自社製品を持参してアピールする姿もあった。

生徒たちは事業者の話に耳を傾け、質疑応答では職場環境や求人条件などを熱心に質問した。

建設業を中心に巡った飯田OIDE長姫高校社会基盤工学科の後藤雅杜さん（16）は「具体的な仕事内容ややりがいなど、普段聞くことのできない現場のリアルな声を聞くことができた。必要な資格なども教えてもらえて将来を考える参考になった」と語った。

製造会社の担当者は「人材不足が深刻な中、生徒と直接話をして自社の強みを伝えられるのは貴重な機会」と話していた。

南信州新聞　2024年(令和6年)12月6日 金曜日

原動機部 エコデン岸和田大会で、2位・3位入賞

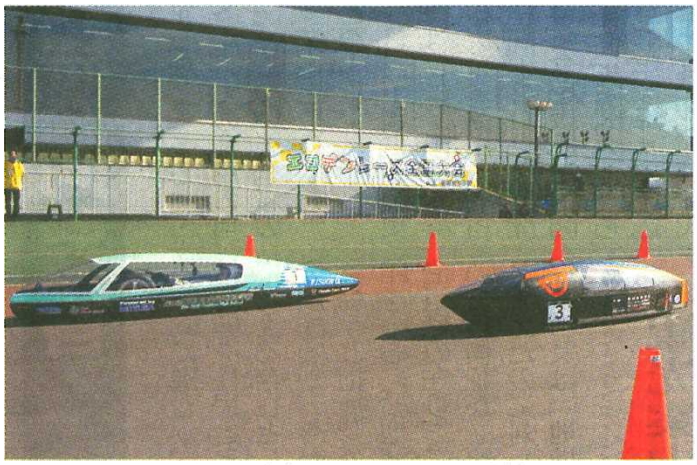
OIDE長姫高

表彰台でフィニッシュ

原動機部が今シーズン終える

飯田OIDE長姫高校原動機部は、11月に大阪府岸和田市で開かれた「2024エコデンレース全国大会」で2位と3位に入賞し、今シーズンのレースを表彰台で締めくくった。部長の久保田洋太さん(17)は今季を振り返り「各々が何をすべきか考え、行動できるようになった。来年はすべての大会で優勝を目指したい」と決意を新たにしている。

エコデン全国大会で2、3位に入ったOIDE長姫原動機部


コースを疾走するWISDOMα（左）

岸和田の大会では、単三乾電池10本を使用する競技時間40分間の耐久レースに出場し、周回数を競った。同部からは2台が出場し、車名「WISDOMα」は制限時間内で52周を走り切り2位、「WISDOM」は49周で3位だった。

岸和田競輪場に設けられた特設コースで、路面はツルツルしていて抵抗が小さく、速さとバッテリーのバランス調整に他のレースとは異なるアプローチが求められたという。

リーダーの櫻井煌成さん(16)は「セッティングを変更しながら対応した。持てる力は出せた」と振り返った。

WISDOMαのドライバーの宮下昊翔さん(17)は「車体の特性を知った上でレースを組み立てた。次までにテクニックを磨いて優勝を目指せるようにしたい」。WISDOMのドライバー熊谷漣太さん(16)は「ドライバーになって初めての表彰台はうれしかった。攻めのレースを身に付けて上を目指したい」と喜びの表情を浮かべた。

今季は7月に三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで開かれた「Ene-1スズカチャレンジ」で高校生部門1位となり、同部門の12連覇を達成。9月には栃木県茂木町のモビリティリゾートもてぎで開催された「2024 Ene-1 MOTEGI GP」で出場した2部門3台すべてが入賞。高校部門2位(総合3位)と同4位(同8位)の好成績を挙げた。

10月に愛知県豊橋市で開かれた「第22回高校エコカーレース総合大会」も優勝と4位の成績で、同大会連覇を達成した。

顧問の中村秀一教諭は「各大会でレギュレーションの変更があり、チャレンジした年だった。その中でも反省を生かしながら上位の結果を残せたことは来シーズンにつながる」とし、関わった人や地域に感謝していた。

「飯伊地区高等学校美術書道展」本校美術部も作品を展示しました。

2024年（令和６年）12月８日　日曜日　南信州新聞

８校の成果111点

８日まで　高校生の美術書道展

飯田下伊那地域の高校の美術・書道クラブによる「第44回飯伊地区高等学校美術書道展」（県教育委員会など主催）が7、8の両日、飯田市東和町の丘の上結いスクエア3階ムトスぷらざで開かれている。8校の生徒の111点が来場者を楽しませている。

発表を通じた交流や互いの制作活動の活性化、技術向上を目的に開いている。松川、飯田風越、飯田、飯田OIDE長姫、下伊那農業、阿智、阿南、飯田女子の8校が参加した。

美術部門ではアクリル絵の具などで描いた平面作品が中心。風景や人物、静物などさまざまなテーマを表現している。書道部門は、古典の臨書や現代詩などを文字のイメージに合わせた書体を選択した多彩な作品が並んだ。

事務局を務めた飯田高校の美術班4人は、ここ1～3カ月で仕上げた新作を展示。班長の宮内彩名さん（17）は「My Color」と題して、自身の瞳の周りに花をあしらって人の想像力や可能性を表現。「瞳がリアルに描けるように時間をかけた。表したかったことを作品にできた」と話し、「皆の努力が展示されているのでぜひ足を運んでほしい」と話していた。

同高の書道班には13人が所属していて、今回は創作をテーマに好きな言葉や目標を書いた。2年の冨田華怜さん（同）は全てのことがうまくいくことを意味する「百事吉祥」を隷書で仕上げた。「かすりを意識して墨の量を調整した。反省点もあるがうまくいったので満足」とし「これからも得意な字体を極めて、力強く書けるようになりたい」と話していた。

無料。8日は午前9時～午後3時。

多彩な作品が並ぶ会場

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

OB 佐々木重光様（飯田工業）

に絵画の寄贈をして頂きました。

2024年（令和６年）12月11日 水曜日　南信州新聞

森を描いた油絵寄贈

OIDE長姫高に　OBの佐々木重光さん

飯田OIDE長姫高校の前身飯田工業高校卒業生の佐々木重光さん（82）＝飯田市鼎名古熊＝が6日、自身が描いた油絵（50号）を同校に寄贈した。11月6日、飯田カントリー倶楽部で開かれた同窓会ゴルフコンペで自身初となるホールインワンを達成し、学校に何か贈りたいと絵画を選んだ。

佐々木さんは南信美術会と信州美術会の会員。趣味として描くようになった半世紀の間、多くの作品を生み出してきた。

寄贈したのは、佐々木さんが代名詞とする「森」を描いた作品。晩秋の森を描き、シラカバの白と深緑の森、紅葉の黄色のコントラストが絶妙なハーモニーを醸し出している。

「楽しいメンバーとゴルフしたらまぐれでホールインワンが出た」と照れながら語る佐々木さん。「何か贈りたいと考えた時に、同窓会館が殺風景だったのを思い出し絵を贈ろうと思った。森は神が宿ると言われている。生徒たちを見守ってくれると思う」と願った。

須山和彦同窓会長は「非常にありがたいこと。大切にしていきたい」と語り、宮澤直哉校長は「高校は多感な時期。絵を見ることで情操が養われていくのではないか」と感謝した。

絵画を寄贈した佐々木さん（左）

市社会福祉大会　能登半島被災地支援

高校生ボランティア活動報告

2024年(令和6年)12月13日金曜日　南信州新聞

飯田市社協

被災地活動の報告も

社会福祉大会と研修会

飯田市社会福祉協議会主催の第68回市社会福祉大会が7日、鼎文化センターで開かれた。テーマは「災害と地域の支え合い～福祉の力で防災・減災～」。大会後の地域福祉活動推進研修会を通じて地域福祉の重要性と必要性を再認識した。

大会では特別功労として19人を表彰し、3人に感謝状を贈った。寄付者の紹介もあった。

能登半島地震の被災地支援で、社協の「高校生ボランティアワークキャンプ」が8月にあり、この日の研修会ではキャンプに参加した生徒が2日間の活動を振り返った。

キャンプは被災地で学んだことを持ち帰り、災害時の支えになる人材を育成する狙いで飯田、飯田風越、飯田女子、下伊那農、飯田OIDE長姫の5校から計14人が参加した。現地での活動後にそれぞれ新たな一歩を踏み出したといい、赤い羽根共同募金の街頭募金活動や災害救援ボランティア養成講座への参加を紹介し「学んだことを将来に生かしたい」と語った。

社会福祉大会の式典

式典で社協の原重一会長は「住民一人一人が支える側と支えられる側の関係ではなく、共に生きる関係でつながりを持つことが必要な時代」と述べ、名誉大会長の佐藤健市長は大会テーマに触れた上で「災害への備えは物理的、心理的の二つの安全性を確保することになり、いざという時に助け合い支え合える『顔の見える関係』をいくつも持つことが心理的な安全性につながる」とし、日頃の備えにつながることに期待した。

商業科 地域人教育成果発表会を 飯田市鼎文化センターで開催しました

南信州新聞 2024年(令和6年)12月26日木曜日

ＯＩＤＥ長姫高の地域人教育成果発表会

ＯＩＤＥ長姫高

地域での学びの成果披露

商業科の「地域人教育」

飯田OIDE長姫高校商業科が飯田市、松本大学の協力を受けて取り組む「地域人教育」の成果発表会が24日、飯田市鼎文化センターであった。市内の各地区をフィールドに課題解決などに取り組んだ3年生が、活動をともにした地域住民らを前に経過や成果などを示した。

地域人教育は、地域理解を深め、地域での生き方を考え、郷土愛を育んで地域活性化や社会に貢献できる人材の育成を目的とする教育プログラム。3者のパートナーシップ協定に基づいて前身の飯田長姫高校時代に始め、今年で13年目を迎えた。

この日は、市内6地区と全市などで活動を展開した10グループが、プレゼンテーションに臨んだ。全市型のグループは、一度は都会に出ても再び地元に戻ってきたくなるような経験を積んでもらう狙いで、水引、郷土料理、和菓子を研究し、体験企画を立案。水引会社や和菓子店、飲食店、民間団体、公民館などが協力した。

生徒は「住む人には当たり前過ぎて、その魅力に気づけていない」とテーマ設定した理由を示し、「いずれの飯田の文化も、源に『水』がある」と主張。「おいしい水によって飯田の文化は育まれてきた」と続けた。

水引体験や郷土料理と和菓子の調査、猿庫の泉訪問などを経て、11月の羽場地区文化祭に出展。猿庫の水を使ったコーヒーや和菓子（くず餅バー）を提供し、水引体験や飯田の文化クイズなども繰り広げた。

代表生徒は「活動を通して仲間を増やすことができた。水が原点であることを伝えることで、飯田の魅力として知ってもらえたのでは」と成果を強調した。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

2C北原樹さん 優秀賞受賞

2025年(令和７年) １月18日 土曜日 南信州新聞

飯田市

最優秀作品に岡田さん

ヘルメット啓発動画コンテスト

飯田市の自転車用ヘルメット着用促進動画コンテストで、最優秀賞に上郷飯沼の岡田将宏さんの作品が選ばれた。優秀賞は飯田OIDE長姫高校2年の北原樹さんが受賞。表彰式がこのほど市役所で開かれ、佐藤健市長から表彰を受けた。岡田さんの動画は飯田市限定でユーチューブの広告として流れる。

改正道路交通法で自転車運転時のヘルメット着用が年齢を問わず「努力義務」になったものの「市民に十分浸透しているとは言い難い状況」とし、ヘルメットの普及とヘルメット購入支援事業の周知を目的にコンテストを企画した。

11点の応募があり、最優秀賞、優秀賞、アイデア賞を1点ずつ選んだ。

危機管理課によると、昨年7月時点で県内の自転車用ヘルメット着用率は34・7%で全国4位。市の独自調査でも40・6%となっており、県目標の80%に及ばない状況にある。

市では市内在住の中高生、高齢者に3月16日まで、1人2000円の購入支援を行っている。税込みで2000円以上の自転車用ヘルメット1個につき2000円のQUOカードを交付する制度で、24年度の申請数は7日時点で98件。

市役所で開かれた表彰式

受賞作品 YouTube飯田市公式チャネル で公開中

https://www.youtube.com/channel/UCEyq4OEBW80j9HXRBZ-5HEg

地元建築業協会
本校インターンシップに期待

2025年(令和７年)１月23日 木曜日　南信州新聞

若者や女性入職に注力
飯伊建築業協会が総会

飯伊建築業協会（吉川昌利会長）は17日、第63回定期総会と新年祝賀会を飯田市内で開いた。慢性的な人手不足の中、若者や女性の入職に努め、働き方改革を推進する方針を確認した。

総会では2024年度の事業報告や25年度の事業計画を承認。事業報告によると、本年度は飯田市への要望活動や南信州広域連合への車いす寄贈などを行い、春と秋の2回、下伊那各町村に建築工事の発注は地元業者にするよう要望した。

25年度事業計画では、飯田OIDE長姫高校建築学科を対象にしたインターンシップを継続して、高校生の地元企業への就職につなげ、同科へ入学する生徒の約半数が女子であることから、女子生徒へも積極的にPRしていく。他団体と協力して高校生の現場見学会も開く。

飯伊建築業協会の新年祝賀会

新年祝賀会であいさつに立った吉川会長は能登半島地震で飯伊の建設業者も復旧活動に従事したことに触れ「建設業者は防災の担い手でもあり、災害発生時、地域の特性を熟知した地元建設業だからこそ果たせる役割がある」と強調した。

働き方改革の時間外労働上限規制について「民間工事では厳しい工期の案件も多く各社腐心している」と現状を語り「慢性的な人材不足や円安による資材高騰で取り巻く環境は厳しいが、課題解決に向け全力で取り組んでいく」と述べた。

2024 年度下期試験

国家資格 電気工事士21人合格

2025年(令和７年)2月1日 土曜日　南信州新聞

OIDE長姫高

国家資格21人が取得

OBや仲間の協力に感謝

飯田OIDE長姫高校の生徒21人が、国家資格の第一種電気工事士試験と第二種電気工事士試験に合格し、1月29日、宮澤直哉校長に喜びの報告を行った。

電気電子工学科と電子機械工学科の生徒が昨年12月に資格試験に挑戦した。

第一種電気工事士は、高電圧設備の工事に従事するために必要な国家資格で、筆記試験と技能試験の両方に合格する必要がある。本年度は14人が受験し、3年生4人、2年生6人が合格した。仲間とともに主体的に筆記試験の勉強に取り組み、技能試験に向けては、すでに現場で働くOBの指導を受けながら確かな技術を身に付けた。

第二種は屋内電気配線工事に従事するために必要な国家資格で、第一種と同様、筆記と技能の試験に合格する必要がある。16人が受験し、3年生4人、2年生3人、1年生4人の計11人が合格した。オンラインによる自宅学習で学科試験に臨み、すでに合格している2、3年生から技能指導を受けるなどし、休日返上で集中的に取り組んだ。

宮澤校長は「取得に向けて協力してくれたOBや仲間への感謝を忘れずに。合格を励みに、3年生は卒業後の進路に役立てること、1、2年生はさらなる学校生活の充実に向けて頑張ってほしい」と言葉を贈った。

第一種・第二種電気工事士資格取得を報告した生徒

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

松尾地区文化祭に テックレンジャー出演

2025年(令和7年)2月5日 水曜日　南信州新聞

住民集う交流の場に

松尾地区で文化祭盛況

飯田市松尾地区の文化祭が1、2の両日、松尾公民館で開かれた。幅広い世代の住民が訪れ、展示や催しを通じて交流を深めた。

同館文化委員会などでつくる実行委員会が主催し、毎年開いている。

初日は、同地区に伝わる民話を題材にしたアニメーション「うしろむき弁天ものがたり」のお披露目上映があった。天竜川の弁天岩にまつられる弁天様の領有を巡って争う住民や、いつの間にか向きを変える弁天様の不思議を描いている。この日は子どもから大人が鑑賞し、地域の歴史や教訓を民話から学んだ。

2日には恒例の芸能発表会が開かれ、多彩なジャンルの17団体が出演。獅子舞や合唱、フラダンスなどが次々とステージを繰り広げた。

芸能発表会では多彩な団体が出演した

飯田OIDE長姫高校のコンピュータ制御部が演じるヒーロー戦隊劇「高校戦隊テックレンジャー」によるショーもあり、ヒーロー役が悪役と戦う場面では「がんばれ」などと声援を送る子どもたちの姿があった。

実行委員長の鎌倉豊公民館長は「地域の方々がつながり、交流する場となった。今後も一歩ずつ前進し、親しみ楽しめる文化祭を開ければ」と話していた。

2月10日・12日に
高校入試前期選抜を実施しました

2025年(令和７年) ２月12日 水曜日　南信州新聞

飯田下伊那は582人臨む
県立高校の前期選抜

２０２５年度県立高校入試の前期選抜が10日、県内一斉に行われた。飯田下伊那地域では飯田と飯田風越の普通科を除く７校14学科が４０８人を募集し、５８２人が出願。志望校を会場に、今回から導入された学力検査や個人面接に臨んだ。

自己推薦型の前期選抜は調査書と面接に加え、学力検査の成績などを総合的に判定して合否を決める。

飯伊７校の募集人員に対する平均倍率は前年を０・02ポイント上回る１・42倍だった。

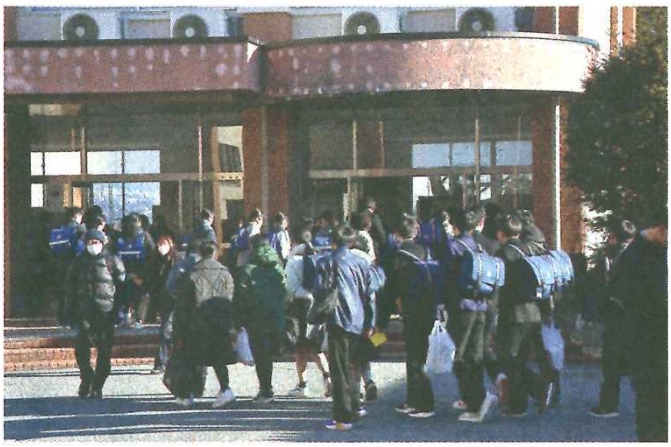
学科別では、下伊那農の地域資源が２・17倍で全県で最も高く、飯田ＯＩＤＥ長姫の電気電子工学と建築学がともに１・83倍、社会基盤工学が１・71倍、下伊那農の栽培科学が１・63倍と続いた。ほかでは、飯田の理数が１・07倍、飯田風越の国際教養が１・17倍、普通科では阿智が１・56倍、松川が１・35倍などとなった。

平均倍率の１・42倍は、第３通学区全体の１・40倍を０・02ポイント上回り、全県平均の１・31倍を０・11ポイント上回った。

全県の全日制では、普通科の平均倍率が１・18倍、農業科が１・59倍、工業科が１・35倍、商業科が１・60倍、家庭科が１・54倍、理数科が１・30倍、国際関係学科が１・13倍など。全日制は募集人員４２９０人に対し、５６１３人が志願した。

合格発表は２月19日。各校が午後１時以降に合格者の受検番号を校内に掲示する。ホームページへの掲載は同２時以降に行う。

後期選抜は２月26～28日に志願、３月３日～５日に志願変更を受け付け、３月11日に学力検査を実施する。合格発表は21日に行う。



試験会場に入場する志願者たち（下伊那農高）

本校志願の265 人が
学力検査・面接検査に臨みました

地元企業(NSK マイクロプレシジョン様)
原動機部を支援

2025年(令和７年) ２月16日 日曜日 南信州新聞

地元企業が活動をバックアップ

ＯＩＤＥ長姫原動機部に部品提供

精密機器ＮＳＫ

松川町に工場がある精密機械メーカー「ＮＳＫマイクロプレシジョン」が13日、飯田ＯＩＤＥ長姫高校原動機部に車両の駆動系への抵抗を減らす部品「ベアリング」を無償提供した。この日、関連会社の社員５人が同校を訪れ、部員を激励。来シーズンの活躍を期待した。

同部は鈴鹿サーキットで開かれるＥｎｅ－１チャレンジで高校生部門12連覇中。他にも各地の大会で活躍している。

部品が劣化すると購入して交換していたが、昨年８月に部員がインターンシップで同社を訪れたことがきっかけになり、今回の支援につながった。

贈呈式では、同部がレース映像や車体の特徴などを紹介するスライドを流し、活動を紹介。同長野支社（諏訪市）の中村鴻亜さん（27）が、部長の久保田洋太さん（17）に１年分の部品（６種類、約60個）を手渡した。

中村さんは「連覇が続くようこれからも応援したい。依頼があれば届けるので、試作などにも使ってほしい」と激励し、長期的なサポートを約束。久保田部長は「ベアリングは根本となる大切な部品の一つ。確かな信頼と性能を持つ部品の提供は大変うれしい。期待に応えられるよう精いっぱい努力したい」と語った。

同部は次年度の大会に向け、車体を分解して整備を行っている。13連覇がかかる「２０２５Ｅｎｅ－１鈴鹿チャレンジ」は12月21日に予定されている。

校内で開かれたベアリング部品の贈呈式

駆動部用のベアリングを
提供していただきました

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

電気部 ジャパンマイコンラリー 全国大会5大会連続出場を報告

2025年(令和7年)2月19日水曜日 南信州新聞

「技術を磨き次の目標へ」

飯田OIDE長姫高校の電気部が、岐阜県で1月に開かれたジャパンマイコンカーラリー全国大会への出場を同校同窓会に報告した。目標の優勝には届かなかったものの、部員たちは「技術を磨き次を目指したい」と語り、須山和彦同窓会長は「全国出場は同窓会としてうれしい。仲間や家族、先生の支えがあったことを忘れず来年度も頑張って」と激励した。

マイコンカーは、コース上の白線をマシンに装着したセンサーで認識し、左右のタイヤの速度を変えて進行方向を制御しながら自動走行する完全自走式ロボットで、大会はコースを周回してタイムを競う。

全国大会は予選までと異なり当日にコースが発表され、限られた時間でマシンの調整を行う必要がある。同部からは2人が出場し、部長の後藤桔梗さん(17)が16位、増田陽さん(同)が32位だった。後藤さんは「練習通りにいかなかった。アクシデントがあった時に乗り切る強さを身に付けることが大事だと思った」と振り返った。

OIDE長姫 電気部 全国大会出場を報告

電気部の全国大会出場報告会

現地観戦した宮澤直哉校長は「全国に進んだことは素晴らしい。今後に期待したい」と言葉を贈った。

増田さんは「来年度の大会はもっと上を目指したい」と決意。後藤さんは「今度は北海道で開催される。耐性の向上やグリップを強化するなど寒冷地対応で臨みたい」と意気込んだ。

同校は2013年度の統合後、8度にわたり全国大会に出場し、14年度に優勝している。コロナ禍で開催がなかった20、21年度をはさみ、18年度からは5大会連続で全国大会へ出場している。

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

前期選抜 合格者165人を発表

南信州新聞　2025年（令和７年）２月20日　木曜日

高校入試

受験生にひと足早い春

前期選抜合格者発表

前期選抜合格発表の様子（飯田ＯＩＤＥ長姫高校）

２０２５年度県立高校入試・前期選抜（自己推薦型入試）の合格者発表が19日、県内各校で一斉に行われた。飯田下伊那地域では飯田と飯田風越の普通科を除く７校14学科で３９３人が合格。各校には保護者らが訪れ、掲示された番号を確認していた。**（合格者番号は４面に掲載）**

飯田ＯＩＤＥ長姫高校では午後１時に、機械工学、電子機械工学、電気電子工学、社会基盤工学、建築学、商業科の合格者計１６５人の番号が記載された紙が正面玄関に掲示された。待ち構えた保護者らは、受験番号を探したり、スマートフォンのカメラで撮影したりしていた。

子どもの番号を見つけた飯田市の50代女性は「勉強はもちろん、有意義な高校生活を過ごしてほしい」と語り、安堵の表情を浮かべていた。

前期選抜は10日で、飯伊７校14学科には募集人員４０８人に対して５８２人が出願した。平均倍率は前年を０・02ポイント上回る１・42倍だった。学科別倍率では、４学科から３学科に再編される下伊那農の学科の一つ、地域資源が２・17倍で全県で最も高かった。

合格者番号は各校のウェブサイトにも掲載された。

後期選抜は26～28日に志願受け付け、３月３～５日に志望変更受付、11日に学力検査の日程で実施する。合格発表は21日。

3年生を対象に司法書士会の法律教室を開講しました

2025年(令和7年)2月23日 日曜日　南信州新聞

社会に出る前に理解を

OIDE長姫高３年生対象

司法書士会が法律教室

県司法書士会（小林雅希会長）は県内の高校生を対象にした「市民法律教室」を開いている。20日は飯田OIDE長姫高校で行い、３年生約１６０人が契約に関連するお金の話を中心に、心構えやいざという時の対処法などを学んだ。

社会に巣立つ高校生を対象に消費者教育を行う同会事業の一環。若者が悪質商法に狙われ、多額の借金を抱える被害に遭うことのないよう、基本的な法律知識を身に付けてもらおうと20年ほど前から続けている。

同校では阿智村の司法書士・柴田智行さん（44）が講師を務めた。契約には契約書が必要な場合と必要でない場合があることを示し、「大きな契約は双方にとって大事だから契約書を作ることが多い」と解説。「大きな契約時には保証人を頼まれることがあるが、親しい友人であっても慎重になって」と呼び掛けた。

カードやスマートフォンを使えば、非対面でもお金を借りられる場合があることから、「ＡＴＭ感覚で利用する人も多い」とも。「いきなり頼らず、まずは家族に相談してほしい」と呼び掛けた。

「社会に出るといろんな人に出会うことになり、大人扱いされるようになる。契約などの知識をあらかじめ身に付けておくことで、トラブルを回避できる社会人になって」と結んだ。

県司法書士会が開いた法律教室

上郷地区地域づくりフォーラムで本校3年生が発表を行いました

2025年(令和7年)2月28日金曜日　南信州新聞

上郷

地域学習の成果発表

飯田市上郷公民館は24日、本年度の「上郷地区地域づくりフォーラム」を公民館で開いた。小中高生が地域をフィールドとした探究学習の成果を発表。住民ら約70人が参加し、地域と学校教育の関わりを考えた。

フォーラムは住民と地域課題を共有する目的で毎年開き、32回目。今回は子どもたちによる発表に加えて市教育委員会による学園構想の説明もあった。

上郷小学校と高陵中学校、飯田OIDE長姫高校の児童生徒がそれぞれ成果を発表した。

地元の材木店や建築会社と連携して木製のモルックを手作りした上郷小5年4組は、活動を通して学んだことを報告。関心のあるテーマを設定して個人やグループで学びを深める探究学習に取り組む高陵中は、2年生の代表2グループが登壇し、「飯田市の発電と環境」「リニアについて」をテーマに語った。

OIDE長姫高は商業科3年で地域人教育の上郷班が1年間の活動を報告。上郷産のリンゴを使ったオリジナルスイーツの開発や、野底山森林公園の紅葉ライトアップでの竹筒製作などを振り返った。

学園構想の説明では、教育課の担当が市内の小中学校教育を取り巻く状況や構想の方針や狙いを紹介した。

地域づくりフォーラム

児童生徒が住民前に

小中高生が地域学習の成果を発表した

発表を聞いた上郷地域まちづくり委員会の北原重光会長は「子どもたちが地域に目を向け、仲間と協力して課題を探求する姿は頼もしい」とし、学園構想について「地域として連携、協力できる形を探っていきたい」と話していた。

後期選抜試験を実施

本校４学科で１倍超え

南信州新聞　2025年（令和７年）３月12日　水曜日

高校入試

飯伊７校で後期選抜

筆記試験と紙上面接に臨む

２０２５年度高校入試の後期選抜が11日、県内の各校で一斉に行われた（一部は12日も実施）。飯田下伊那地域の全日制７校16学科では６８９人の募集に対し、６３４人が志願し、５教科の筆記試験と今年から全高校が行う筆記式の紙上面接や面接に臨んだ。合格発表は21日。

飯田市上郷黒田の飯田高校には、理数と普通の２学科に２２４人が志願した。午前８時過ぎ、冷たい雨が降る中で保護者の送迎などで校門から入り、試験会場へと向かった。

各校とも試験は午前９時25分から各教科50分の制限時間で実施。国語、数学、社会、昼食を挟んで理科、英語の順に行った。紙上面接は午後３時35分～同45分の10分間で実施。対面による面接は午後３時35分から翌日までの間で行う。

飯伊７校の平均倍率は前年より０・03ポイント低い０・92倍。上伊那と諏訪地域を含めた第３通学区の平均０・93倍を０・01ポイント下回った。

志願者数は前年より80人、募集人員は61人減少した。７校17学科のうち、１倍を超えたのは飯田の理数、飯田OIDE長姫の電気電子工学、同建築学、同社会基盤工学、同機械工学、下伊那農の地域資源で、松川の普通と下伊那農の生物活用は募集と同数の１・０倍だった。残る５校７学科は１倍を下回った。

全県の公立全日制の志願者は８２５０人で、倍率は０・94倍。志願者は前年より１０６２人少なく、平均倍率は前年と同じだった。

合格発表は21日午前８時半から各校一斉に掲示する。ホームページでの合格者番号の発表は同日午前９時半頃から。

試験会場に向かう受験生たち（飯田高校）

掲載記事提供：(株)南信州新聞社

ネスクイイダのお仕事見学に本校２年生が参加

2025年（令和７年） 3月15日 土曜日 南信州新聞

実際に見て企業知る

ネスクイイダ「お仕事見学」開催中

南信州・飯田産業センター内にある企業の共同受注・開発グループ「ネスクイイダ」は春休み期間中、地域の学生が地元産業のものづくり現場を見学できる「お仕事見学」を開いている。

学生が地元企業を「知る」機会をつくり、就職を考える際の選択肢につなげる狙いで、今年で3回目。ネスク会員の34社が参加し、昨年から対象を飯伊にある全高校の生徒などに拡大。気軽に好きな日時で見学できるのが特徴だ。

13日は医療機器部品加工を手掛ける花井メディテック（飯田市北方）に、飯田OIDE長姫高校電子機械工学科2年の井上玲さん（17）が見学に訪れた。

同社の花井孝文社長らが事業を説明し、旋盤技術を生かし開発したイングリッシュハンドベルも紹介。社内コンペで社員がアイデアを出し合い、乾杯カップ「花音」などの商品が生まれたことを伝えた。

全ての工場を見て回り、大型の複合加工機による製造や検査、CAD・CAMによる設計など作業現場を一通り見学。イングリッシュハンドベルの演奏も体験し、見学終了後には女性社員との親睦会もあった。

井上さんは「加工や組み立てが好きで、就職に生かしたかった」と参加の動機を語り、「学校にはない機械が動いているのが新鮮で、多様な事業をしていることも分かった。実際に見た方がより理解が深まる」と話した。

花井社長は「見学することで企業のイメージが湧き、就職のミスマッチ防止にもなる。高校生は企業を自由に見る機会がないのでぜひ利用してもらい、地域の企業全体、生徒の皆がウィンウィンになれば」と話した。

お仕事見学は31日まで開き、28日まで申し込みを受け付けている。希望者はネスクホームページ内の専用フォームから申し込むか、参加企業へ直接電話する。

花井メディテックが開発したハンドベルを体験する高校生